編	章	節	条	枝番	工 種	測 定	項目	規格値	測 定 基 準	測定箇所	単位:mm 摘 要
3 土	2 一般	3 共通	4	(人田	矢板工(指定仮設・任 意仮設は除く)		高▽	±50	基準高は施工延長40m (測点間隔25mの 場合は50m) につき1ヶ所、延長40m (または50m) 以下のものは1施工箇所		3-2-3-4
工事共	施工	的工種			(鋼矢板) (軽量鋼矢板) (コンクリート矢板)	根之	入長	設計値以上	につき2ヶ所。 変位は、施工延長20m(測点間隔25mの 場合は25m)につき1ヶ所、延長20m		
通編					(広幅鋼矢板) (可とう鋼矢板)	変	位0	100	(または25m) 以下のものは1施工箇所 につき2ヶ所。		
									「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)」に基づき出来形管理を実施する場合は、同要領に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施することができる。		
3 土 木	2 一 般	3 共 通	5		<b>縁石工</b> (縁石・アスカーブ)	延	룬 L	-200	1ヶ所/1施工箇所 ただし、「3次元計測技術を用いた出 来形管理要領(案)」の規定により管		3-2-3-5
工事共通編	施工	的工種							理を行う場合は、延長の変化点で測定。		
3 土 木	2 一 般	3 共通	6		小型標識工	設置	高さH	設計値以上	1ヶ所/1基		3-2-3-6
工事共	施工	的工種					幅w (D)	-30	基礎1基毎	w(D)	
通編						基礎	高さh	-30		H h	
							根入れ長	設計値以上			

編	章	節	条	枝番	工 種	測定	項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	海 要
3 土 木	2 一 般	3 共 通	7		防止柵工 (立入防止柵)	基礎	幅w	-30	単独基礎10基につき1基、10基以下の ものは2基測定。測定箇所は1基につき 1ヶ所測定。		3-2-3-7
工事共通編	施 工	的工種			(転落(横断)防止 柵) (車止めポスト)	<b></b>	高さh	-30		h	
編						パイプI	文付高H	+30 -20	1ヶ所/1施工箇所		
3 土 木	2 一 般	3 共 通	8	1	路側防護柵工 (ガードレール)	<del>11'</del> 7 <del>14'</del>	幅w	-30	1ヶ所/施工延長40m 40m以下のものは、2ヶ所/1施工箇 所。	W K————————————————————————————————————	3-2-3-8
工事共通編	施 工	的 工 種				基礎	高さh	-30		h	
通編						ビームI	友付高H	$^{+30}_{-20}$	1ヶ所/1施工箇所		
										H	

										I	単位:mm
編	章	節	条	枝番	工種	測定	項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
3 土 木 工	2 一 般	3 共通	8	2	路側防護柵工 (ガードケーブル)		幅w	-30	1ヶ所/1基礎毎		3-2-3-8 ※ワイヤロー プ式防護柵に
事	施 工	的 工 種				基礎	高さh	-30			も適用する
共通編							延長L	-100		kwy k L	
						ケーブル	取付高H	+30 -20	1ヶ所/1施工箇所	R □	
3 土 木	2 一般	3 共通,	9		区画線工	厚 ō (溶融 ī	さ t 式のみ)	設計値以上	各線種毎に、1ヶ所テストピースにより測定。		3-2-3-9
工事共通	施 工	的 工 種				幅	iw	設計値以上			
編											
3 土 木	2 一 般	3 共 通	10		道路付属物工 (視線誘導標)	高。	ž h	±30	1ヶ所/10本 10本以下の場合は、2ヶ所測定。		3-2-3-10
T	施工	的工種			(距離標)					$\bigcap_{\mathbf{h}}$	
事共通編		,									

							_					単位:mm
編	章	節	条	枝番	工   種	測 定 項 目	規格値	測 定 基 準	測	定 箇	所	摘要
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通的工種	11		コンクリート面塗装工	塗料使用量	膜厚」の標準使用量以 上。	塗装系ごとの塗装面積を算出・照査して、各塗料の必要量を求め、塗付作業の開始前に搬入量(充缶数)と、塗付作業終了時に使用量(空缶数)を確認し、各々必要量以上であることを確認する。				3-2-3-11
3 土木工	2一般施工	3 共通的工	12	1	プレテンション桁製作 工 (購入工) (けた橋)	桁長L (m)	± L /1,000	桁全数について測定。 橋桁のそりは中央の値とする。 なお、JISマーク表示品を使用する 場合は、製造工場の発行するJISに基	断面図			3-2-3-12
事共	工	工種				断面の外形寸法	±5	づく試験成績表に替えることができる。				
通編						橋桁のそり δ <sub>1</sub>	±8		/tul 77   Sep	L		
						横方向の曲がり $oldsymbol{\delta}_2$	±10		側面図	δι		
									平面図	L		
3 土木工事:	2一般施工	3 共通的工	12	2	プレテンション桁製作 工(購入工) (スラブ桁)	桁長L (m)	±10… L ≦10m	桁全数について測定。 橋桁のそりは中央の値とする。 なお、JISマーク表示品を使用する 場合は、製造工場の発行するJISに基 づく試験成績表に替えることができ	断面図			3-2-3-12
共通編		種				断面の外形寸法	±5	<b>ప</b> .		1	L I	
						橋桁のそり $\delta_{1}$	±8		側面図			
						横方向の曲がり $\delta_{2}$	±10			3 I	). 	
									平面図	8	) <sub>2</sub>	

編	章	節	条	枝番	工   種	測定項目	規格値	測 定 基 準		事位:mm 摘 要
3 土 木 エ	2 一般	3 共通6	13	1	ポストテンション桁製 作工	幅 (上) w <sub>1</sub>	+10 -5	桁全数について測定。 横方向タワミの測定は、プレストレッシング後に測定。	W1	3-2-3-13 注)新設のコンクリート構
工事共	施 工	的工種				幅 (下) w <sub>2</sub>	±5	桁断面寸法測定箇所は、両端部、中央 部の3ヶ所とする。		造物(橋梁 上・下部工お よび重要構造
通編						高さ h	+10 -5	なお、JISマーク表示品を使用する 場合は、製造工場の発行するJISに基 づく試験成績表に替えることができ	h	物である内空 断面積25㎡以 上のボックス
						桁長0 支間長	<pre>0&lt;15…±10  0≥15…± (0−5) カンつ−30mm以内</pre>	る。 Ø:支間長 (m)	$W_2$	カルバート (工場製作の プレキャスト 製品は全ての 工種において
						横方向最大タワミ	0.80			対象外))の 鉄筋の配筋状 況及びかぶり
										にいいては、 いでは、 にいりのである。 にいりのである。 は、 は、 は、 は、 は、 ののでのでのでのでのでいる。 は、 は、 は、 ののでのでのでのでいる。 は、 ののでのでのでいる。 は、 ののでのでのでのでいる。 は、 ののでのでのでのでのでいる。 は、 ののでのでのでのでのでいる。 は、 ののでのでのでのでのでいる。 は、 ののでのでのでのでいる。 は、 ののでのでのでのでのでいる。 は、 ののでのでのでのでのでのでいる。 は、 ののでのでのでのでのでのでのでのでいる。 は、 ののでのでのでのでのでのでのでいる。 は、 ののでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでのでの
3 土 木	2 一 般	3 共 通	13	2	プレキャストセグメン ト桁製作工	析長0	_	析全数について測定。析断面寸法測定 箇所は、図面の寸法表示箇所で測定。		3-2-3-13
工事共	施工	的工種			(購入工)	断面の外形寸法 (mm)	_			
通編										
3 土木工事:	2 一般施工	3 共通的工程	14		プレキャストセグメン ト主桁組立工	桁長0 支間長	<pre></pre>	桁全数について測定。 横方向タワミの測定は、プレストレッ シング後に測定。 桁断面寸法測定箇所は、両端部、中央 部の3ヶ所とする		3-2-3-14
共通編		種				横方向最大タワミ	0.80	0: 支間長 (m)		

編	章	節	条	枝番	工  種	測定項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
3 土 木	2 一 般	3 共通	15		P C ホロースラブ製作 工	基準高▽		桁全数について測定。 基準高は、1径間当たり2ヶ所(支点付近)で1箇所当たり両端と中央部の3		3-2-3-15 注)新設のコ ンクリート構
工事共	施 工	的 工 種				幅w <sub>1</sub> , w <sub>2</sub>		点、幅及び厚さは1径間当たり両端と 中央部の3ヶ所。	t w1	造物(橋梁 上・下部工お よび重要構造
通編						厚さ t	$-10\sim +20$	※鉄筋の出来形管理基準については、 第3編3-2-18-2床版工に準ずる。		物である内空 断面積25㎡以 上のボックス
						桁長0	ℓ<15…±10 ℓ≥15…± (ℓ−5) かつ−30mm以内	0:桁長 (m)	W 2	カルバート (工場製作の プレキャスト 製品は全ての 工種において
										対鉄況に「にリ中及アンドルの状り、験のびい破るト配が領適とは試い造状りもする。」といい、は、、の状の、、の状の、、の状の、、の状の、、の状の、、の状の、、の状の、

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
3 土 木	2 一 般	3 共 通	16	1	PC箱桁製作工	基準高▽	$\pm 20$	桁全数について測定。 基準高は、1径間当たり2ヶ所(支点付近)で1箇所当たり両端と中央部の3	w1	3-2-3-16 注)新設のコ ンクリート構
工事共	施工	的工種				幅(上)w <sub>1</sub>	$-5\sim +30$	点、幅及び高さは1径間当たり両端と 中央部の3ヶ所。	h <sub>1</sub>	造物(橋梁 上・下部工お よび重要構造
通編						幅(下)w₂	$-5\sim +30$	※鉄筋の出来形管理基準については、 第3編3-2-18-2床版工に準ずる。	w2	物である内空 断面積25㎡以 上のボックス
						内 空 幅w3	±5	ℓ:桁長 (m)	,,,	カルバート(工場製作のプレキャスト
						高さh <sub>1</sub>	+10 -5			製品は全ての工種において対象外))の
						内空高さh <sub>2</sub>	+10 -5			鉄筋の配筋状 況及びかぶり については、
						桁長0	ℓ<15…±10 ℓ≥15…± (ℓ−5) かつ−30mm以内			「非破壊試験 による「構造物」 中の配がが、 中の配がが、 大変がある。
										定要領」も併せて適用する

編	章	節	条	枝番	工  種	測定項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
3 土 木	2 一 般	3 共通	16	2	PC押出し箱桁製作工	幅(上)w <sub>1</sub>	$-5 \sim +30$	桁全数について測定。 桁断面寸法測定箇所は、両端部、中央 部の3ヶ所とする。	W1	3-2-3-16 注)新設のコ ンクリート構
工事共通	施 工	的 工 種				幅 (下) w <sub>2</sub>	$-5\sim +30$	※鉄筋の出来形管理基準については、 第3編3-2-18-2床版工に準ずる。	$h_1$ $h_2$ $w_3$	造物(橋梁 上・下部工お よび重要構造
編						内空幅w <sub>3</sub>	±5	θ:桁長 (m)	W <sub>2</sub>	物である内空 断面積25㎡以 上のボックス
						高さh <sub>1</sub>	+10 -5			カルバート (工場製作の プレキャスト
						内空高さh <sub>2</sub>	+10 -5			製品は全ての工種において対象外))の対象の配質性
						桁長0	ℓ<15…±10 ℓ≥15…± (ℓ−5) カン−30mm以内			鉄筋の配筋状りについて にしまなる によるトト によるトト によるトト を はなった を はなり はなった を はなり なった。 で はなった。 で はなった。 で はなった。 で はなった。 で はなった。 で れる。 で と の と の と の と の と の と の と の と の と の と
										中の配筋状態 及びかぶり測 定要領」も併 せて適用する

				T .	I				<u> </u>	1	単位:mm
編	章	節	条	枝番	工   種	測	定項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通的工種	17		根固めブロック工		基準高▽	±100	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1ヶ所、延長40m (または50m) 以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。		3-2-3-17
通編						層積	厚さ t	-20	幅、厚さは40個につき1ヶ所測定。		
							幅 $W_1$ , $W_2$	-20			
							延長L <sub>1</sub> , L <sub>2</sub>	-200	1施工箇所毎	t <b>— — — —</b>	
						乱積	基準高▽	± t /2	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき1ヶ所、延長40m (または50m) 以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。	L <sub>2</sub>	
							延長L <sub>1</sub> , L <sub>2</sub>	− t ∕2	1施工箇所毎	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	
										t は根固めブロックの高さ	
3 土 木 工	2 一 般	3 共 通	18		沈床工		基準高▽	±150	1組毎		3-2-3-18
工事共通	施 工	的 工 種					幅w	±300		w V	
編							延長L	-200			

				単位:mm
編		節		所 摘 要
3 土 木 工	2 3 19 捨石工 施工延長40m (測点間隔25mの場合は : 一 共 基準高▽ −100 50m) につき1ヶ所、延長40m (または 50m) 以下のものは1施工箇所につき	共 通	50m) につき1ヶ所、延長40m (または 50m) 以下のものは1施工箇所につき	3-2-3-19
事共	「	工	2ヶ所。	<u>}</u>
通編	延長L — 200			
3 土 木		共通	1回/1施工箇所 L L → L → L → L → L → L → L → L → L →	3-2-3-22
土木工事共通	施 的 工	工	h	
通編	長さL —30			-
	段数 ±0段		w	
			<u> </u>	_
3 土 木 工	2     3     24     1     伸縮装置工     高さについては車道端部及び中央部の 3点       :     般     通     (ゴムジョイント)     据付け高さ     ±3	共 通	3点 (Bコンクリートの (Aゴムジョイント部材の	
事	「 】 工 】 工 】   】	工	向) に3mの直線定規で測って凹凸が3 ――― \ 維持修繕の場合	は、既設舗装面
通編	仕上げ高さ 舗装面に対し 0~-2			
			据付け高:「④」と「④の設計値」との差が 仕上げ高:後打ちコンが有る場合「④」と 後打ちコンが無い場合「④」と「⑥」の差	「⑧」の差分、
+ 共通編	:   -   -   -   -   -   -   -   -   -	植	据付け高:「(A)と「(Aの設計値」との差、 仕上げ高:後打ちコンが有る場合「(A)と	Γ(

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測定基準	
					伸縮装置工	例 足 切 日	AT 111 III.		
3 土 木	2 一 般	3 共 通	24	2	(鋼製フィンガージョ	据付け高さ	±3	高さについては車道端部、中央部において橋軸方向に各3点計9点	<
工事共通	施 工	的工種			イント)	橋軸方向各点誤差の相対差	3	表面の凹凸は長手方向(橋軸直角方向)に3mの直線定規で測って凹凸が3mm以下	
編						表面の凹凸	3	歯咬み合い部は車道端部、中央部の計 3点	Ç,L (;
						歯型板面の歯咬み合い 部の高低差	2		C.L C,L A B 歯型板面の歯咬み あい部の高低差:咬
						歯咬み合い部の縦方向 間隔W1	±2		が。 が表い部中心A、B 点の差 C,L
						歯咬み合い部の横方向 間隔W2	±5		舗装面 仕上げ高さ
						仕上げ高さ	舗装面に対し 0~-2		あと打ちコンクリート
3 土 木	2 一 般	3 共通:	24	3	伸縮装置工 (埋設型ジョイント)	表面の凹凸	3	高さについては車道端部及び中央部の 3点	3-2-3-24   横軸方向  →
工事共通	施工	的 工 種				仕上げ高さ	舗装面に対し 0~+3	表面の凹凸は長手方向(橋軸直角方向)に3mの直線定規で測って凹凸が3mm以下	鎌装面 ☆ 仕上げ高さ
通編									
3 土 木	2 一 般	3 共 通	26	1	多自然型護岸工 (巨石張り、巨石積み)	基準高▽	±500	施工延長40m (測点間隔25mの場合は 50m) につき1ヶ所、延長40m (または 50m) 以下のものは1施工箇所につき	3-2-3-26
工事共通	施工	的 工 種				法長0	-200	2ヶ所。	l V
通編						延長L	-200		

			,		1					単位:mm
章	節	条	枝番	工   種	測定	項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
2 一般:	3 共通:	26	2	多自然型護岸工 (かごマット)	法:	長0	-100	50m) につき1ヶ所、延長40m (また150m) 以下のものは1施工箇所につる	<b>す</b>	3-2-3-26
施工	的工種				厚さ	ž t	−0.2 t	2ヶ所。	2	
					延县	₹L	-200			
0		0.7							B19903.	0.0.0.0
般	共通	27	1	羽口上 (じゃかご)	法長0	$\ell < 3 \mathrm{m}$	<b>-</b> 50	50m) につき1ヶ所、延長40m (また150m) 以下のものは1施工箇所につる	<b>す</b>	3-2-3-27
	工種					$\ell\! \ge \! 3m$	-100	2 ケ /灯。 	2	
					厚さ	ž t	<b>-50</b>			
		0.7	0							0.0.0.0
般	共通	27	2	羽口上 (ふとんかご、かご枠)	高	Š h	-100	50m) につき1ヶ所、延長40m (また150m) 以下のものは1施工箇所につる	t	3-2-3-27
施 工	工種				延長L	1, L <sub>2</sub>	-200	2 ケ /灯。 		
									L <sub>2</sub>	
	2 一般施工 2 一般施工 2 一般施工	2一般施工     2一般施工       3共通的工種     3共通的工種	2 一般施工     26       3 共通的工種     3 共通的工種       2 一般施工     27       2 一般施工     27	2 一般施工     3 共通的工種       2 一般施工     3 共通的工種       2 一般施工     3 共通的工種       2 一般施工     2 一般施工	2	2 一般施工     3 共通的工程     26 2 多自然型護岸工 (かごマット)     法法       2 一般施工     3 共通的工程     27 1 羽口工 (じゃかご)     法長息       2 一般施工     3 共通的工程     27 2 羽口工 (ふとんかご、かご枠)     原さ       2 一般施工     3 共通的工程     27 2 羽口工 (ふとんかご、かご枠)     延長L       2 一般施工     3 共通的工工     3 共通的工工     3 共通的工工	2	2 一般 施	2	2

					1			1		単位:mm
編	章	節	条	枝番	工   種	測 定 項 目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
3 土 木	2 一 般	3 プ レ	28		プレキャストカルバー トエ	基準高▽	±30	施工延長40m (測点間隔25mの場合は 50m) につき1ヶ所、施工延長40m (ま たは50m) 以下のものは1施工箇所につ		3-2-3-28
工事共	施 工	キャス			(プレキャストボック ス工) (プレキャストパイプ	※幅w	-50	き2ヶ所。 ※印は、現場打部分のある場合。	L L	
通編		トカル			工)	※高さ h	-30			
		バート				延長L	-200	1施工箇所毎	h V	
		エ							h w	
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通的工種	29	1	側溝工 (プレキャストU型側 溝) (L型側溝工) (自由勾配側溝) (管渠)	基準高▽	±30	施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1ヶ所、施工延長40m(または50m)以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。 「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)」の規定による測点の管理方法を用いることができる。		3-2-3-29
						延長L	-200	1ヶ所/1施工箇所 ただし、「3次元計測技術を用いた出 来形管理要領(案)」の規定により管		
								理を行う場合は、延長の変化点で測 定。	9899X	

編	章	節	条	枝番	工   種	測定項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
3 土 木	2 一 般	3 共 通	29	2	側溝工 (場所打水路工)	基準高▽	±30	施工延長40m(測点間隔25mの場合は 50m)につき1ヶ所、施工延長40m(ま たは50m)以下のものは1施工箇所につ		3-2-3-29
工事共	施 工	的工種				厚さt <sub>1</sub> , t <sub>2</sub>	-20	き2ヶ所。	t <sub>1</sub> W t <sub>2</sub>	
通編						幅w	-30		$h_1$ $h_2$	
						高さ $\mathtt{h}_1$ , $\mathtt{h}_2$	-30			
						延長L	-200	1施工箇所毎		
3 土 木	2 一 般:	3 共通:	29	3	側溝工 (暗渠工)	基準高▽	±30	施工延長40m (測点間隔25mの場合は 50m) につき1ヶ所、延長40m (または 50m) 以下のものは1施工につき2ヶ	. W1	3-2-3-29
工事共	施工	的工種				幅w <sub>1</sub> , w <sub>2</sub>	<b>—</b> 50	所。 「3次元計測技術を用いた出来形管理 要領(案)」の規定による測点の管理		
通編						深さh	-30	方法を用いることができる。	h	
						延長L		1施工箇所毎 ただし、「3次元計測技術を用いた出 来形管理要領(案)」の規定により管 理を行う場合は、延長の変化点で測 定。	₩2	

										単位:mm
編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
3 土 木	2 一 般	3 共 通	30		集水桝工	基準高▽	±30	1ヶ所毎 ※は、現場打部分のある場合		3-2-3-30
工事共	施 工	的工種				※厚さ t 1∼ t 5	-20		w <sub>1</sub>	
通編						※幅w <sub>1</sub> , w <sub>2</sub>	-30		$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	
						※高さh <sub>1</sub> , h <sub>2</sub>	-30		$h_1$ $h_2$ $\nabla$	
									ts ts	
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通的工種	31		現場塗装工	<b>塗膜</b> 厚	計値の90%以上。 b. 測定値の最小値 は、目標塗膜厚合計値	塗装終了時に測定。 1ロットの大きさは500㎡とする。 1ロット当たりの測定数は25点とし、 4 名点の測定は5回行い、その平均値を その点の測定値とする。ただし、1 ロットの面積が200㎡に満たない場合 は10㎡ごとに1点とする。		3-2-3-31
3 土 木	2 一 般	4 基 礎	1		一般事項 (切込砂利)	幅w	設計値以上	施工延長40m (測点間隔25mの場合は 50m) につき1ヶ所、延長40m (または 50m) 以下のものは1施工箇所につき		3-2-4-1
工事共	施 工	工			(砕石基礎工) (割ぐり石基礎工) (均しコンクリート)	厚さt <sub>1,</sub> t <sub>2</sub>	-30	2ヶ所。	t <sub>2</sub> t <sub>1</sub>	
通編						延長L	各構造物の規格値によ る		<b>5800</b>	

					1		T			単位:mm
編	章	節	条	枝番	工   種	測定項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
3 土 木	2 一般:	4 基 礎	3	1	基礎工(護岸) (現場打)	基準高▽	±30	施工延長40m (測点間隔25mの場合は 50m) につき1ヶ所、延長40m (または 50m) 以下のものは1施工箇所につき		3-2-4-3
工事共	施 工	工				幅w	-30	2ヶ所。 「3次元計測技術を用いた出来形管理	w d	
通編						高さ h	-30	要領 (案)」に基づき出来形管理を実施する場合は、同要領に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法によ	h	
						延長L	-200	り出来形管理を実施することができる。		
3 土木	2 一般:	4 基 礎	3	2	基礎工 (護岸) (プレキャスト)	基準高▽	±30	施工延長40m (測点間隔25mの場合は 50m) につき1ヶ所、延長40m (または 50m) 以下のものは1施工箇所につき		3-2-4-3
工事共	施 工	工				延長L	-200	2ヶ所。 「3次元計測技術を用いた出来形管理 要領(案)」の規定による測点の管理		
通編								方法を用いることができる。		
3 土 木	2 一 般	4 基 礎	4	1	既製杭工 (既製コンクリート	基準高▽	±50	「3次元計測技術を用いた出来形管理	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$	3-2-4-4
工事共	施 工	工			杭) (鋼管杭) (H鋼杭)	根入長	設計値以上	要領 (案) 」に基づき出来形管理を実施する場合は、同要領に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法によ	d V N N N N N N N N N N N N N N N N N N	
通編						偏心量 d	D/4以内かつ100以内	り出来形管理を実施することができ る。	D	
						傾斜	1/100以内		x	

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	単位:mm 摘 要
3 ±	2	4 基	4	2	既製杭工	基準高▽	±50	全数について杭中心で測定。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$	3-2-4-4
木工事共	般施工	礎 工			(鋼管ソイルセメント 杭)	根入長	設計値以上		Ą	
共通編						偏心量 d	D/4以内かつ100以内			
小州						傾斜	1/100以内		D	
						杭径D	設計値以上		H x	
									□ □ □ □ →	
3 土 *	2 一 般	4 基 礎	5		場所打杭工	基準高▽	±50	全数について杭中心で測定。 「3次元計測技術を用いた出来形管理	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$	3-2-4-5
木工事	施工	工				根入長	設計値以上	要領(案)」に基づき出来形管理を実施する場合は、同要領に規定する計測	A	
共通編						偏心量 d	100以内	精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施することができる。		
дда						傾斜	1/100以内	<i>∞</i> ∘	D	
						杭径D	設計径(公称径) -30以上		F x	
3 土 *	2 一般	4 基礎	6		深礎工	基準高▽	±50	全数について杭中心で測定。 ※ライナープレートの場合はその内	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$	3-2-4-6
土木工事共通	施工	工				根入長	設計値以上	径、補強リングを必要とする場合は補 強リングの内径とし、モルタルライニ	H	
共通編						偏心量 d	150以内	ングの場合はモルタル等の土留め構造 の内径にて測定。		
מוזילי						傾斜	1/50以内		D y	
						基礎径D	設計径(公称径) 以上※			

	1		1	T				1		単位:mm
編	章	節	条	枝番	工   種	測定項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
3 土 木	2 一 般	4 基 礎	7		オープンケーソン基礎工	基準高▽	±100	壁厚、幅、高さ、長さ、偏心量につい ては各打設ロットごとに測定。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$	3-2-4-7
土木工事共通	施工	工				ケーソンの長さℓ	-50		√k <u>~</u>	
共通編						ケーソンの幅w	<b>-50</b>		t $h$ $t$ $t$ $t$	
Alia						ケーソンの高さ h	-100			
						ケーソンの壁厚 t	-20		ў <u>т</u> у	
						偏心量d	300以内		$\mathcal{H}$	
									х	
3 土	2 一 般	4 基 礎	8		ニューマチックケーソ ン基礎工	基準高▽	±100	壁厚、幅、高さ、長さ、偏心量につい ては各打設ロットごとに測定。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$	3-2-4-8
木工事共通	施工	工				ケーソンの長さℓ	-50			
共通編						ケーソンの幅w	-50		t $t$ $t$ $t$ $t$	
лупа						ケーソンの高さh	-100			
						ケーソンの壁厚 t	-20		y = 1	
						偏心量d	300以内		H	
									х	
3 土 *	2 一 般	4 基 礎	9		鋼管矢板基礎工	基準高▽	±100	基準高は、全数を測定。 偏心量は、1基ごとに測定。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$	3-2-4-9
木工事共通	施工	工				根入長	設計値以上		$d = \sqrt{x^2 + y^2}$	
共通編						偏心量d	300以内			
/үни									y H	
									x d	

編	章	節	条	枝番	工  種	測定	項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	海 要
3 土 木	2 一 般	5 石	3	1	コンクリートブロック 工	基準	信▽	±50	施工延長40m (測点間隔25mの場合 50m) につき1ヶ所、延長40m (また6 50m) 以下のものは1施工箇所につ	t e	3-2-5-3
工事共	施 工	ブロッ			(コンクリートブロッ ク積) (コンクリートブロッ	法長0	ℓ < 3m	-50	2ヶ所。厚さは上端部及び下端部の2 所を測定。 「3次元計測技術を用いた出来形管:		
通編		ク積(エ			ク張り)	拉及6	ℓ≧3m	-100	要領(案)」の規定による測点の管理 方法を用いることができる。	$t_1$	
		張 工					[さ 積・張) t <sub>1</sub>	<b>-</b> 50		t <sub>1</sub> t <sub>2</sub> <b>Q</b>	
						厚さ(夏	夏込) t <sub>2</sub>	-50		t <sub>1</sub>	
						延	툿 L	-200		t <sub>2</sub>	
3 土 木	2 一般	5 石 ・	3	2	コンクリートブロックエ	基準	高▽	±50	施工延長40m (測点間隔25mの場合(50m) につき1ヶ所、延長40m (また 50m) 以下のものは1施工箇所につ	I. 1	3-2-5-3
工事共	施 工	ブロック			(連節ブロック張り)	法	長ℓ	-100	2ヶ所。 「3次元計測技術を用いた出来形管: 要領 (案) 」の規定による測点の管:	2	
通編		ク積(正				延長L	L <sub>1</sub> , L <sub>2</sub>	-200	方法を用いることができる。		
		張) 工								L <sub>2</sub>	

編	章	節	条	枝番	工  種	測定	項目	規格値	測定	基準	測 定 箇 所	海 要
3 土 木	2 一 般	5 石	3	3	コンクリートブロック エ	基準	高▽	±50	施工延長40m(測点 50m)につき1ヶ所、 50m)以下のものは	、延長40m (または	W   W   W   W   W   W   W   W   W   W	3-2-5-3
工事共	施工	ブロッ			(天端保護ブロック)	幅	Î W	-100	2ヶ所。 「3次元計測技術を 要領(案)」の規定	Eによる測点の管理	間詰かご	
通編		ク積 ()				延:	ĒL	-200	方法を用いることが	<b>ぶできる。</b>	W ISIII	
		張) 工									連結ブロック	
3 ±	2	5 石	4		緑化ブロック工	基準	高▽	±50	施工延長40m (測点 50m) につき1ヶ所、	、延長40m (または		3-2-5-4
木工事	般 施 工	・ブロ				法長0	ℓ < 3m	-50	-50m) 以下のものは 2ヶ所。厚さは上端 所を測定。	部及び下端部の2ヶ	le TRIT	
共通編		ッ ク 積				12126	0≧3m	-100	「3次元計測技術を 要領(案)」の規定 ■方法を用いることが	Eによる測点の管理	t <sub>1</sub>	
7/410		(張)				厚さ(ブロ	コック) t <sub>1</sub>	<b>—</b> 50	73 IA C/13 · W C C IV		t <sub>1</sub> t <sub>2</sub>	
		エ				厚さ(夏	<b>蔓込) t₂</b>	<b>—</b> 50				
						延:	툿L	-200			$t_1$ $t_2$	
3 土 木	2 一 般	5 石	5		石積(張)工	基準	高▽	±50	施工延長40m (測点 50m) につき1ヶ所、 -50m) 以下のものは	、延長40m(または		3-2-5-5
工事	施工	ブロ				法長0	Q < 3m	<b>—</b> 50	2ヶ所。厚さは上端 所を測定。	部及び下端部の2ヶ		
共通編		ッ ク 積				1220	$\ell \ge 3 \mathrm{m}$	-100	<ul><li>「3次元計測技術を 要領(案)」の規定</li><li>お法を用いることが</li></ul>	<b>Eによる測点の管理</b>		
Aylın		(張)				厚さ(石種	責・張) t <sub>1</sub>	<b>—</b> 50				
		工				厚さ(胴	夏込) t 2	-50				
						延:	ĘL	-200			$t_2$	

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測 定 基 準	測	定	筃	所	摘要
3 土木工事共通編	2 一般施工	6一般舗装工	6	4	橋面防水工 (シート系 床版防水層)	シートの重ね幅	-20~+50	標準重ね幅100mmに対し、1施工箇所毎に目視と測定により全面を確認					3-2-6-6-4

											単位:
								規	各値		
編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	個々の ()	測定値 X)	合は測	(X10) 理の場	)
							中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下	
3 土 木	2 一 般	6 一 般	7	1	アスファルト舗装工 (下層路盤工)	基準高▽	±40	±50	_	_	基準高は延長40m毎に1ヶ所の割とし、工事規模の考え方 道路中心線および端部で測定。厚さは 中規模以上の工事とは、管理図等を 各車線200m毎に1ヶ所を掘り起こして 描いた上での管理が可能な工事をい
工事共	施工	編装工				厚さ	-45	-45	-15	-15	測定。幅は、延長80m毎に1ヶ所の割に い、舗装施工面積が10,000㎡以上ある 測定。ただし、幅は設計図書の測点にいは使用する基層及び表層用混合物の よらず延長80m以下の間隔で測定する 総使用量が、3,000 t 以上の場合が該
通編						幅	-50	-50	_	_	ことができる。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
											要領(案)」の規定による測点の管理施工管理に反映できる規模の工事をいた。同一工種の施工が数日連続する場合で、次のいずれかに該当するものをいう。 ①施工面積で2,000㎡以上10,000㎡未満。②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が500t以上3,000t未満厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10個の測定値の平均値(X10)について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。

											単位:	: mm
								規材	各値			
編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	個々の (X		10個の の平均 *面管 合は測 平	(X10) 理の場 定値の	)	
							中規模以上	小規模 以下	中規模以上	小規模 以下		
3 土 木 工	2 一般施	6 一般舗 :	7	2	アスファルト舗装工 (下層路盤工)	基準高▽ 厚さあるい	±90	±90	+40 -15 +40	+50 -15 +50	おいて「3次元計測技術を用いた出来  中規模以上の工事とは、管理図等を   形管理要領(案)」に基づき出来形管 描いた上での管理が可能な工事をい   理を実施する場合、その他本基準に規 い、舗装施工面積が10,000㎡以上ある	
事共通編	工	装工			(面管理の場合)	は標高較差	±90	±90	+40 -15	-15	(大学の計例程度・計例密度を摘にすました。) では10円分を基層及び表層用混合物の関方法により出来形管理を実施する場合に適用する。	
											5. 厚さを標高較差として評価する場合は、直下層の目標高さ+直下層の標高較差平均値+設計厚さから求まる高さとの差とする。この場合、基準高の評価は省略する。	

											<u></u>	位:mn
								規材	各値			
編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	個々の ()		10個の の平均 *面管 合は測 平	(X10) 理の場	-	要
							中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下		
3 土 木	2 一 般	6 一 般	7	3	アスファルト舗装工 (上層路盤工)	厚さ	-25	-30	-8	-10	こして測定。ただし、幅は設計図書の描いた上での管理が可能な工事をい	7
工事共	施 工	舗装工			粒度調整路盤工	幅	-50	-50	_	_	測点によらず延長80m以下の間隔で測い、舗装施工面積が10,000㎡以上ある 定することができる。 いは使用する基層及び表層用混合物の 総使用量が、3,000 t 以上の場合が該	
通編											「3次元計測技術を用いた出来形管理当する。 要領(案)」の規定による測点の管理方法を用いることができる。  ・小規模工事とは、中規模以上の工事より規模は小さいものの、管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、次のいずれかに該当するものをいう。 ①施工面積で2,000㎡以上10,000㎡未満。②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が500t以上3,000t未満厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10個の測定値の平均値(X10)について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。	

																			<u> </u>	立: mm
								規材	各値											
編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	個々の (∑		10個の の平均 *面管 合は測 平	(X10) 理の場 定値の	測	定	基	準	測	定	筃	所	摘	要
							中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下										
3 土木工事共通編	2 一般施工	6一般舗装工	7		アスファルト舗装工 (上層路盤工) 粒度調整路盤工 (面管理の場合)	厚さあるいは標高較差	-54	-63	-8	-10	お形理定測合 2度 3全度以 4の 5合いで理実る法適 個し 計の1と 厚高 厚、「要施計に用 々て 測点点す さ値 さ直 ではと です かました です かました かっしょう かいしょう しょう かいしょう はんしょう かいしょう はんしょう かいしょう はんしょう かいしょう はんしょう しょう はんしょう はんしょく はんしょう はんしょく はんしょう はんしょく はんしん はんしょく はんしょく はんしょく はんしんしょく はんしょく はんしん はんしんしん はんしん はんしん はんしん はんしん は	次にる精りる 計10 設標㎡。 、の 標層値元案場度出。 測皿 計高( 直差 高の+計)合・来 値が 幅値平 下で 較目設	測」、計形 の含 員を面 層算 差標技にそ測管 規ま の算投 の出 と高術基の密理 格れ 内出影 標す しさん	則全面とし、 する。計測密 面積当たり) 高値と当該層	描いい総当 よ施い合い①満②使用規た舗使用る規規管同、。工 用量模上装用量。模模理一次 面 すが500以で施すが 工はに工の 積 る500以で施すが 工はに工の 積 る500	上の正3、 事小文重、 で	が10,000 は 10,000 は 10,000 は 中のるがに	0㎡以上あるの 6㎡以上あ物が 7個月場合の 10月の 10		

H	3.4\/	mm
-7	- 17	1111111

								規 柞	各 値										単位:mm
編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	個々の ()	測定値	10個の の平均 *面管 合は測 平	(X10) 理の場 定値の	浿	定	基	準	測	定	筃	所	摘要
							中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下									
3 土 木	2 一 般	6 一 般	7	5	アスファルト舗装工 (上層路盤工)	厚さ	-25	-30	-8	-10	さは、1,0 取もしく	00 m <sup>*</sup> に1 は掘り走	個の割っ ここして	の割とし、厚 でコアーを採 「測定。 ただ	中規模以描いた上で	上の工事 の管理	が可能		
工事共通	施 工	舗 装 工			セメント (石灰) 安定処理工	幅	-50	-50	_	_				こよらず延長 ることができ	いは使用す総使用量が	る基層及	及び表層		
地編												」の規	定による		よ施い合い①満②使 以な均な 規管同、。工 用量さのな(なりな)を値(ない)を値(ない)を値(ない)を値(ない)を値(ない)を値(ない)をが	小叉種ハ で 基bt個でとしたできたがで 基力を関す で とので を	あき正い が、側直 いのるがに ㎡ 表00定を10個満 10個に 10個に 10個に 10個に 10個に 10個に 10個に 10個に	莫の工事をい 日連続する場 当するものを 110,000㎡未 日混合物の総	

																			里位	<u> </u>
								規	各値											
編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	個々の ()		10個の の平均 *面管 合は測 平	(X10) 理の場 定値の	測	定	基	準	測	定	筃	所	摘	要
							中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下										
3 土木工事共通編	2一般施工	6一般舗装工	7		アスファルト舗装工(上層路盤工)セメント(石灰)安定処理工(面管理の場合)	厚さあるいは標高較差	E4	-63	-8	-10	お形理定測合 2度 3全度以 4の 5合い管をす方に と . ては上 . 標 . はて理実る法適 個し 計の1と 厚高 厚、はで理実る法適 個し 計の1と 厚高 厚、信で、で、で、で、で、で、で、で、い	3頁ナ刺に「ひこ」はでぶる。はここを下均次(る精りる。計000 設標が、 の 標層値元案場度出。 測100 計標で で 彰昌と計)を・来 値が 軽値平 下で 彰昌と	・測」、計形 の含 員を面 層算 差標技にそ測管 規ま の算投 の出 と高術基の密理 格れ 内出影 標っ しさ	則全面とし、 する。計測密 面積当たり) 高値と当該層	描いい総当 よ施い合い①満②使中い、は使す小り工、でう施 使用る規規管同、。工 用量模上装用量。模模理一次 面 すが500 であすが 工はに工の 積 るるののである。	上の正る、 事小叉重ハ で 基別で重ね で よいで施えれ とさ映のず で 層 屋 ひ いで施えれ の ひ で まん かん ひ で まん かん ひ で まん かん	1が10,000 t 中のるがに ㎡ 表別 はの、根の は 中のるがに ㎡ 表別 は 別 関	0㎡以上かるの 層に のが 関語に のが のが ので ので ので ので ので ので ので ので ので ので		

単位:mm 規格値 10個の測定値 の平均(X10) 個々の測定値 測定項目 枝番 \*面管理の場 摘 要 章 T. 定 基 定 (X) 合は測定値の 平均 中規模 小規模 中規模 小規模 以下 以上 以下 以上 3 6 アスファルト舗装工 幅は、延長80m毎に1ヶ所の割とし、厚工事規模の考え方 3-2-6-7 土: 厚さ -5 -7 || さは、1,000 m<sup>2</sup>に1個の割でコアーを採 | 中規模以上の工事とは、管理図等を -15-20木 般 取して測定。ただし、幅は設計図書の描いた上での管理が可能な工事をい (加熱アスファルト 工 施 舖 安定処理工) 測点によらず延長80m以下の間隔で測 い、舗装施工面積が10,000㎡以上ある 事 工 装 幅 定することができる。 いは使用する基層及び表層用混合物の -50-50共 工 総使用量が、3,000 t 以上の場合が該 通 「3次元計測技術を用いた出来形管理 当する。 要領(案)」の規定による測点の管理 小規模工事とは、中規模以上の工事 方法を用いることができる。 より規模は小さいものの、管理結果を 施工管理に反映できる規模の工事をレ゙ い、同一工種の施工が数日連続する場 合で、次のいずれかに該当するものを いう。 ①施工面積で2,000㎡以上10,000㎡未 ②使用する基層及び表層用混合物の総 使用量が500t以上3,000t未満 厚さは、個々の測定値が10個に9個 以上の割合で規格値を満足しなければ ならないとともに、10個の測定値の平 均値(X10)について満足しなければ ならない。ただし、厚さのデータ数が

10個未満の場合は測定値の平均値は適

用しない。

																			単位	<u>寸</u> : mm
								規	各値											
編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	個々の ()		の平均 *面管 合は測	測定値 I(X10) 理の場  定値の 対	測	定	基	進	測	定	筃	所	摘	要
							中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下										
3 土木工事共通編	2一般施工	6一般舗装工	7	8	アスファルト舗装工 (加熱アスファルト安定処理工) (面管理の場合)	厚さあるいと	-36	-45	-5	-7	お形理定測合 2度 3全度以 4の 5合い管をす方に と . ては上 . 標 . はて理実る法適 個し 計の1と 厚高 厚、は では上 . 標 . は さ で で で で で で で で しょう さんしょう さんしょう さんしょう こく しょうしゃ しょうしゃ かいしゅうしゅう かいしょう はんしょう しょうしゃ しょう しょうしゃ しょうしゃ しょうしゃ しょうしゃ しょうしゃ しょうしゃ しょうしゃ しょうしゃ しょうしゃ しょう	3 頁に削たっつこう はでがった ない とてり次元案場度出。 測皿 計高( 直差 高の仕)計)の・来 値が 幅値平 下で 較目設	測」、計形 の含 員を面 層算 差標技にそ測管 規ま の算投 の出 と高術基の密理 格れ 内出影 標さ しさ	をづ也度を 直い 則す面 高い出基満施 はふ。面。当た来準にする 測 し測り さんまん はい 全る積 値と とが はい といい といい といい といい といい といい といい といい といい	描い、は使す小り工、でう施・使用る規規管同、。工 用量の機模理一次 面 すが500であすが 工はに工の 積 るるののであった。	上の正る、 事小豆重ハ で 裏の とさいで施れた で 2,000 で 裏の とこと	が10,00 は 中のるがに ㎡ 大野 (10,00 は 中のるがに ㎡ 大野 (10,00 は 大野 (10,00 は 大野 (10,00 は 大野 (10,00 は )) が 大野 (10,00 は )	0㎡以上あるの 6㎡以上あ物が 5個用混合かが 5世間で 5世 5世間で 5世に 5世に 5世に 5世に 5世に 5世に 5世に 5世に		

																					単位	<u>7.: mm</u>
									規	各値												
編	章	節	条	枝番	I	種	測定項目	個々の ()		の平均 *面管 合は測	測定値 (X10) 理の場  定値の 均	ì	則 5	宦	基	準	測	定	筃	所	摘	要
								中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下											
3 土 木	2 一 般	6 一 般	7	9	アスファル (基層工)	卜舗装工	厚さ	-9	-12	-3	-4	さは、1, 取して測	000 ㎡ l l定。た	こ1個 だし	<ul><li>の割て</li><li>、幅は</li></ul>	*コアーを採 :設計図書の	工事規模のネ 中規模以_ 描いた上で	この工具の管理	が可能	な工事をい	3-2-6-7	
工事共	施 工	舗装工					幅	-25	-25	_	_	定するこ	とがで	きる。	>		い、舗装施工いは使用する総使用量が、	5基層及	及び表層	層用混合物の		
通編													<ul><li>) 」の</li></ul>	規定	による		よ施い合い①満②使 以な均な10 別工、でう施 使用厚上ら値ら個し ア 規模理一次 面 すがは割いX10 でう施 で利摩上ら値ら個し ア でうがは割いX10 がは割いX10 がは割い 採りの で がは割い が に がは割い が に が に が に が に が に が に が に が に	いえ重い で 甚も固ざさ に湯 こ等みさ映のず 2、層以々規もにだ合 つでえいで施れ ひの 及上の格につしは いコるである でしま	- DSE C M	管理 管理 管理 語す も 10,000 物 に 根 に は に は に は に に は に に は に は に は に に は に は に に は に に は に に は に に に は に に に に に に に に に に に に に		

																			単作	<u>立</u> :mm
								規	各値											
編	章	節	条	枝番	工  種	測定項目	個々の (∑		10個の の平均 *面管 合は測 平	(X10) 理の場 定値の	測	定	基	準	測	定	筃	所	摘	要
							中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下										
3 土木工事共通編	2一般施工	6一般舗装工	7	10	アスファルト舗装工(基層工)(面管理の場合)	厚さあるいは標高較差	20	-25	-3	-4	お形理定測合 2度 3全度以 4の 5合い管をす方に .と .ては上 .標 .は . では上 . 標 . は . では . では . では . では . では . では .	3. 質に対する さい はでがらい まい とばり 次元案場度出 。 測が、計高( 直差、 高値 十 計)合・来 値 値 幅値平 下で、較目設	測」、計形 のま 員を面 層算 差標(術基の密理 格で 内出影 標す しさ	を が 世 明 き 本 を に ま 本 を に る き は 。 面 。 当 た ま に る き も も も も も 。 る 。 。 る 。 る 。 る 。 る 。 る 。 る 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。	描いい総当 よ施い合い①満②使い、は使す小り工、でう施 使用を規規管同、。工 用量上装用量。模模理一次 面 すが500でですが 工はに工の 積 るるののである。	上ので面基3,000 にで 下で 下で で 下で で 下で で 下で 下で アン・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	が10,000 は 10,000 は 10,000 は 中のるがに	管理図等をいるの のポ以上合合 のポ以上合合 が以上合合 が工果をるの が工果をるの が工果をるの が工果をるの が にののの が ののの が ののの が ののの が ののの が ののの ののの ののの ののの のののの のののの のののの のののの ののののの ののののの ののののの のののののの		

																			単	位:mm
								規	烙 値											
編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	個々の ()	測定値 ()		(X10) 理の場 定値の	測	定	基	準	測	定	筃	所	摘	要
							中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下										
3 土 木	般	6 一 般	7	11	アスファルト舗装工 (表層工)	厚さ	-7	-9	-2		幅は、延長8 さは、1,000 取して測定。	)㎡に1個 , ただし	の割で   、幅は	コアーを採 設計図書の	中規模以. 描いた上で	上の工事 の管理	が可能			7
工事共通	工	舗装工				幅	-25	-25	_		測点によらて 定すること	ができる	00		い、舗装施 いは使用す 総使用量が	る基層)	及び表層	層用混合物の		
通編						平坦性	-		3mプロラー (σ)2.4 直読) (σ)1.7 下	以下 足付	「3次元計社要領(案)」方法を用いた	」の規定	による	0	当 よ施い合い①満②使 以な均な10用 コ 等他す小り工、でう施 使用厚上ら値ら個し ア橋にのる規規管同、。工 用量さのな(な未な 一面損方。模模理一次 面 すがは割いXい満い 採舗傷法工はに工の 積 る50、合と10。の。 取装をに	事小又锺ハ で 堪い個でと た場 こ等与よ ことさ映のず 2、層以々規もにだ合 つでえる おはいであれ 000 で3名こ いこんしい いコるこ いっぱい できごか	もきにか 0 ざい測直 い 則 でア恐む て 中のるがに ㎡ 表の定を10で厚定 一れが は 層い値満個満さ値 採の出 、 植、札下草、 上 厚り値、 4 で 4 で 4 で 4 で 4 で 4 で 4 で 4 で 4 で 4	英		

													- 単型	<u> </u>
								規	各値					
編	章	節	条	枝番	工   種	測定項目	個々の (∑	測定値 ()	10個の の平面管 合は測 平面	(X10) 理の場	測 定 基 準 測 定 🕯	節 所	摘	要
							中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下				
3 土木工事共通編	2 一般施工	6一般舗装工	7	12	アスファルト舗装工(表層工) (面管理の場合)	厚さあるい は標高較差 平坦性	-17	-20 -	-2 3mプロコメーター (σ)2.4 (σ)2.5 (σ)1.7 下	- 	1. 3次元データによる出来形管理において「3次元計測技術を用いた出来形管理を実施する場合、その他本基準に規い、舗装施工面積が10定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。 2. 個々の計測値の規格値には計測精合に適用する。 2. 個々の計測値の規格値には計測精度として生4mmが含まれている。 3. 計測は設計幅員の内側全面とし、おり規模に反映であるが表生の点で標高値を算出する。計測密度は1点/㎡(平面投影面積当たり)の施工面積で2,000㎡、次のいずれかに全ての点で標高値を算出する。計測を関連とする。 4. 厚さは、直下層の標高値と当該層の標高値との差で算出する。 4. 厚さは、直下層の標高値と当該層の標高値との差で算出する。 4. 厚さは、直下層の標高値と当該層の標高値との差で算出する場響は1点が500t以上3,00分表である。 4. 厚さは、直下層の標高値と当該層の標高値との差で算出する。 4. 厚さは、直下層の標高値と当該層の標高値との差で算出する。 4. 厚さは、直下層の標高値と当該層の標高値との差で算出する場質は、直下層の目標高さ十直下層の標	可能なポリートでは、1000㎡以上物では、1000㎡以上のでは、1000㎡の開のの開場の開場の開発をは、1000㎡の開発をは、10000㎡のでは、10000㎡のでは、10000㎡のでは、10000㎡のでは、10000㎡のでは、10000㎡のでは、10000㎡のでは、10000㎡のでは、10000㎡のでは、10000㎡のでは、10000㎡のでは、10000㎡のでは、100000㎡のでは、100000では、10000では、10000では、10000では、10000では、10000では、10000では、10000では、100000では、10000では、10000では、10000では、10000では、10000では、10000では、10000では、10000では、10000では、10000では、10000では、10000では、10000では、10000では、10000では、100000では、100		
3 土木工事共通編	2一般施工	6 一般舗装工	8	1	半たわみ性舗装工 (下層路盤工)	基準高▽ 厚さ 幅	±40 -45 -50	±50 -45 -50	— —15 —	— —15 —	正は、世内の時間では、東京の時間では、世界の時間である。  基準高は延長40m毎に1ヶ所の割とし、	な工事をいい、 めの総使用量が を当する。 規模以上の工事 の、管理結果を 規模の工事をい		

											単位:m
								規 柞	各 値		
編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	個々の ( <b>〉</b>		の平均 *面管 合は測	理の場	測 定 基 準 測 定 箇 所 摘 要
							中規模 以上	小規模 以下	中規模以上	小規模 以下	
3 土 木	2 一 般	6 一 般	8	2	半たわみ性舗装工 (下層路盤工)	基準高▽	±90	±90	+40 -15	+50 -15	1. 3次元データによる出来形管理に 工事規模の考え方 3-2-6-8 おいて「3次元計測技術を用いた出来 中規模以上の工事は、管理図等を描 形管理要領(案)」に基づき出来形管 いた上での管理が可能な工事をいい、
工事共	施工	舗装工			(面管理の場合)	厚さあるい は標高較差	±90	±90	$^{+40}_{-15}$	+50 -15	測万法により出米形官埋を美施する場  小規模工事とは、甲規模以上の工事
通編											より規模は小さいものの、管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいる。   と、個々の計測値の規格値には計測精度として±10mmが含まれている。   として±10mmが含まれている。   として±10mmが含まれている。   として±10mmが含まれている。   といる。   といる。   といる。   といる。   といる。   といる。   といる。   といる。   といる。   といるのでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ
											3. 計測は設計幅員の内側全面とし、 全ての点で標高値を算出する。計測密 度は1点/㎡(平面投影面積当たり) 以上とする。
											4. 厚さは、直下層の標高値と当該層 の標高値との差で算出する。
											5. 厚さを標高較差として評価する場合は、直下層の目標高さ+直下層の標高較差平均値+設計厚さから求まる高さとの差とする。この場合、基準高の評価は省略する。
3 土 木	2 一 般	6 一般	8		半たわみ性舗装工 (上層路盤工)	厚さ	-25	-30	-8	-10	幅は、延長80m毎に1ヶ所の割とし、厚工事規模の考え方 さは、各車線200m毎に1ヶ所を掘り起 こして測定。ただし、幅は設計図書のいた上での管理が可能な工事をいい、
工事共通	施工	舗装工			粒度調整路盤工 	幅	<b>-</b> 50	-50		_	測点によらず延長80m以下の間隔で測 基層及び表層用混合物の総使用量が
編											「3次元計測技術を用いた出来形管理 要領(案)」の規定による測点の管理 施工管理に反映できる規模の工事をい 方法を用いることができる。 合が該当する。 「3次元計測技術を用いた出来形管理 に反映できる規模の工事をい い、同一工種の施工が数日連続する場 合が該当する。

	単位:mm	
斤	摘要	
図等を描 をいい、 使用量が	3-2-6-8	

								規格	各 値			
編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	個々の (∑		10個の の平均 * 合は測 平	(X10) 理の場 定値の	測 定 基 準 測 定 箇 所 摘 要	
							中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下		
3 土木工事共通編	2一般施工	6一般舗装工	8		半たわみ性舗装工 (上層路盤工) 粒度調整路盤工 (面管理の場合)	厚さあるいは標高較差	-54	-63	-8		1. 3次元データによる出来形管理において「3次元計測技術を用いた出来形管理を実施する場合、その他本基準に規基層及び表層用混合物の総使用量が設定する計測精度・計測密度を満たす計制方法により出来形管理を実施する場合に適用する。	

単位	:	mm	

								規	各値		単位: 1
編	章	節	条	枝番	工種	測定項目		測定値 X)		(X10) 理の場 定値の	測 定 基 準 測 定 箇 所 摘 要
							中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下	
3 土 木	2 一 般	6 一 般	8	5	半たわみ性舗装工 (上層路盤工)	厚さ	-25	-30	-8	-10	幅は、延長80m毎に1ヶ所の割とし、厚工事規模の考え方 3-2-6-8 さは、1,000㎡に1個の割でコアーを採 中規模以上の工事は、管理図等を描 取もしくは掘り起こして測定。ただいた上での管理が可能な工事をいい、
工事共通	施 工	舗装工			セメント(石灰)安 定処理工	幅	-50	-50	_		し、幅は設計図書の測点によらず延長 80m以下の間隔で測定することができ 3,000 t 以上の場合が該当する。 る。 小規模工事とは、中規模以上の工事
編											より規模は小さいものの、管理結果を 「3次元計測技術を用いた出来形管理 施工管理に反映できる規模の工事をい 要領(案)」の規定による測点の管理 い、同一工種の施工が数日連続する場 方法を用いることができる。 合が該当する。
											コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版 等に損傷を与える恐れのある場合は、 他の方法によることが出来る。

単位:mm 規格値 10個の測定値 の平均(X10) 個々の測定値 測定項目 枝番 \* 面管理の場 定基 摘 要 章 T. 定箇 (X)合は測定値の 平均 中規模 小規模 中規模 小規模 以上 以下 以上 以下 3 半たわみ性舗装工 1. 3次元データによる出来形管理に 工事規模の考え方 3-2-6-8 厚さあるい -63-8 -10 おいて「3次元計測技術を用いた出来 中規模以上の工事は、管理図等を描 土 (上層路盤工) -54は標高較差 木 般 般 形管理要領(案)」に基づき出来形管 いた上での管理が可能な工事をいい、 理を実施する場合、その他本基準に規基層及び表層用混合物の総使用量が 工 施 舗 セメント(石灰)安 装 事 定処理工 定する計測精度・計測密度を満たす計 3,000 t 以上の場合が該当する。 共 工 測方法により出来形管理を実施する場 小規模工事とは、中規模以上の工事 通 (面管理の場合) 合に適用する。 より規模は小さいものの、管理結果を 施工管理に反映できる規模の工事をい 2. 個々の計測値の規格値には計測精い、同一工種の施工が数日連続する場 度として±10mmが含まれている。 合が該当する。 3. 計測は設計幅員の内側全面とし、 全ての点で標高値を算出する。計測密 度は1点/m<sup>2</sup>(平面投影面積当たり) 以上とする。 4. 厚さは、直下層の標高値と当該層 の標高値との差で算出する。 5. 厚さを標高較差として評価する場 合は、直下層の目標高さ+直下層の標 高較差平均値+設計厚さから求まる高 さとの差とする。

単位	:	mm	

								規	各値		甲位:
編	章	節	条	枝番	工種	測定項目		測定値	合は測		測 定 基 準 測 定 箇 所 摘 要
							中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下	
3 土 木	2 一 般	6 一 般	8	7	半たわみ性舗装工 (加熱アスファルト	厚さ	-15	-20	<b>-</b> 5		取して測定。ただし、幅は設計図書のいた上での管理が可能な工事をいい、
工 事 共 通	施 工	舗装工			安定処理工)	幅	-50	-50			測点によらず延長80m以下の間隔で測 基層及び表層用混合物の総使用量が 定することができる。 3,000 t 以上の場合が該当する。 小規模工事とは、中規模以上の工事
通編											「3次元計測技術を用いた出来形管理 より規模は小さいものの、管理結果を 要領(案)」の規定による測点の管理 施工管理に反映できる規模の工事をい 方法を用いることができる。 合が該当する。 「3次元計測技術を用いた出来形管理 より規模は小さいものの、管理結果を に同一工種の施工が数日連続する場合が該当する。
											コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版 等に損傷を与える恐れのある場合は、 他の方法によることが出来る。

H	3.4\/	mm
-7	- 17	1111111

																			里12	<u> </u>
								規材	各値											
編	章	節	条	枝番	工  種	測定項目	個々の ()		10個の の平均 *面管 合は測 平	(X10) 理の場 定値の	測	定	基	準	測	定	笛	所	摘	要
							中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下										
3 土木工事共通編	2一般施工	6一般舗装工	8	8	半たわみ性舗装工 (加熱アスファルト 安定処理工) (面管理の場合)	厚さあるいとは標高較差	-36	-45	-5		お形理定測合 2度 3全度以 4の 5合い管をす方に .と .ては上 .標 .はて理実る法適 個し 計の1と 厚高 厚、はてはよ . では上 . 標 . はて 測よす 々て 測点/する にと を下	次にる精りる 計10 設標㎡。 、の 標層値元案場度出。 測皿 計高( 直差 高の+計)合・来 値が 幅値平 下で 較目設	測」、計形 の含 員を面 層章 差標板にそ測管 規ま の算投 の出 と高い といい といい はいかい はいかい はいかい はいかい はいかい はいかい	をづ也度を 直い 則す面 高い出基満施 はふ 面。当 とれ来準にする 測 と測り 当を とり とが ( ) といい ( )	いた上での。 基層及び表 3,000 t 以上 より規模は、 施工、同様はい 合が該当す	上ぎ層のとさいて、正が混られている。またでは、またで、またいで、をしている。	可能なの と合物の とが を 対 中のの 見 も る 規	つ総使用量が		

HH /	11/	٠	mm
	14.		шш

				1															中/	位: mm
								規	各値											
編	章	節	条	枝番	工   種	測定項目		測定値 X)	の平均 *面管 合は測	測定値 (X10) 理の場 定値の 均	測	定	基	準	測	定	笛	所	摘	要
							中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下	1									
3 土 木	2 一 般	6 一般	8	9	半たわみ性舗装工 (基層工)	厚さ	-9	-12	-3	-4	幅は、延長8 さは、1,000 取して測定。	)㎡に11 ただ	個の割っし、幅に	でコアーを採 は設計図書の	中規模以」 いた上での管	上の工事 管理が同	「能な」	匚事をいい、		3
工事共	施 工	舗 装 工				幅	-25	-25	_	_	測点によらったすることが	びできる	5.		3,000 t 以上 小規模工事	の場合; 事とは、	が該当 <sup>。</sup> 中規模	する。 莫以上の工事		
編											「3次元計》 要領(案)」 方法を用いる	の規定	定による	る測点の管理	より規模はた施工管理に い、同一工利 合が該当する	<b></b> こ映でき 重の施工	る規模	莫の工事をい		
															コアー採取に 橋面舗装等 等に損傷を与 他の方法によ	等でコア チえる恐	一採取れのあ			
3 土 木	2 一 般	6 一般	8	10	半たわみ性舗装工 (基層工)	厚さあるい は標高較差	-20	-25	-3		おいて「37 形管理要領	次元計》 (案)	則技術を 」に基へ	と用いた出来 づき出来形管	いた上での管	上の工事 管理が同	『能な』	匚事をいい、		3
工事共通	施工	舗 装 工			(面管理の場合)						理を実施する計測料 測方法により	情度・ り出来	計測密度	きを満たす計		の場合; 事とは、	が該当 <sup>。</sup> 中規模	する。 莫以上の工事		
編											2. 個々のi 度として±4				施工管理に反	え映でき 重の施工	る規模	莫の工事をい		
											3. 計測は記 全ての点で 度は1点/m 以上とする。	漂高値 ἆ(平晶	を算出す	トる。 計測密						
											4. 厚さは、 の標高値との									
											5. 厚さを相合は、直下順高較差平均何 さとの差とで	層の目標 直+設	漂高さ-	⊢直下層の標						

単	41/	٠	mn
	1-/-		ш

											単位:1
								規	各値		
編	章	節	条	枝番	工種	測定項目		測定値	の平均 *面管 合は測	測定値 (X10) 理の場 定値の 均	- 
							中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上		
3 土 木	2 一 般	6 一 般	8	11	半たわみ性舗装工 (表層工)	厚さ	-7	-9	-2	-3	幅は、延長80m毎に1ヶ所の割とし、厚 工事規模の考え方 さは、1,000㎡毎に1個の割でコアーを 中規模以上の工事は、管理図等を描 採取して測定。ただし、幅は設計図書 いた上での管理が可能な工事をいい、
工事共	施 工	舗装工				幅	-25	-25	_	_	の測点によらず延長80m以下の間隔で 測定することができる。 基層及び表層用混合物の総使用量が 3,000 t 以上の場合が該当する。 小規模工事とは、中規模以上の工事
通編						平坦性	_	_	メータ・	■以下 足付	要領(案)」の規定による測点の管理 施工管理に反映できる規模の工事をい 方法を用いることができる。
											他の方法によることが出来る。 維持工事においては、平坦性の項目 を省略することが出来る。

単1仏: N	ın
--------	----

																			里1	<u>7</u> : mm
								規	各値											
編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	個々の (∑		10個の の平均 *面管 合は測 平	理の場定値の	測	)定	基	準	測	定	筃	所	摘	要
							中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下										
3 土	2 一 般	6 一 般	8	12	半たわみ性舗装工 (表層工)	厚さあるい は標高較差	-17	-20	-2	-3	おいて「:	3次元計	則技術を	を用いた出来	工事規模の 中規模以_ いた上での	上の工具		<b>管理図等を描</b>	3-2-6-8	
工事共通編	施工	無 装 工			(面管理の場合)	平坦性	-	_	3mプロンター (σ)2.4(σ)2.4(σ)2.4(σ)2.4(σ)2.4(σ)1.7	- mm以下 足付 5mm以	理定測合 2度 3全度以 4の 5合 をす方に と . ては上 . 標 . は 実る法適 個し 計の1と 厚高 厚、 は . で 過点す さ値 さ直	た 計 は は は は は は は は に に に に に に に に に に に に に	、計形 のま 員を釘 層草 差標の密理 格て 伪出影 標す しさ	也を基準にする 単に はまり はまり は まり は ない まい は まい	基層及は以上 3,000 t以上 3,000 t以上 より が り規規管同該 持略 で を 省略 を 者 を も も も も も も も も も も も も も も も も も	層の場合はいで施 動とはいで施 がある。 いっこう おいっこう いっこう いっこう いっこう いっこう いっこう いっこう いっこう	合物が が 中の も き が 中の る 数 し て は 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	<ul><li>総使用量がする。</li><li>莫以上の工事管理結果を関めて事を関めている</li><li>はまずる場合</li><li>はまずる場合</li><li>はまずる場合</li><li>はまずる場合</li><li>はまずる場合</li><li>はまずる場合</li><li>はまずる場合</li><li>はまずる場合</li><li>はまずる場合</li><li>はまずる場合</li><li>はまずる場合</li><li>はまずる場合</li><li>はまずる場合</li><li>はまずる場合</li><li>はまずる場合</li><li>はまずる場合</li><li>はまずる場合</li><li>はまずる場合</li><li>はまずる場合</li><li>はまずる場合</li><li>はまずる場合</li><li>はまずる場合</li><li>はまずる場合</li><li>はまずる場合</li><li>はまずる場合</li><li>はまずる場合</li><li>はまずる場合</li><li>はまずる場合</li><li>はまずる場合</li><li>はまずる場合</li><li>はまずる場合</li><li>はまずる場合</li><li>はまずる場合</li><li>はまずる場合</li><li>はまずる場合</li><li>はまずる場合</li><li>はまずる場合</li><li>はまずる場合</li><li>はまずる場合</li><li>はまずる場合</li><li>はまずる場合</li><li>はまずる場合</li><li>はまずる場合</li><li>はまずる場合</li><li>はまずる場合</li><li>はまずる場合</li><li>はまずる場合</li><li>はまずる場合</li><li>はまずる場合</li><li>はまずる場合</li><li>はまずる場合</li><li>はまずる場合</li><li>はまずる場合</li><li>はまずる場合</li><li>はまずる場合</li><li>はまずる場合</li><li>はまずる場合</li><li>はまずる場合</li><li>はまずる場合</li><li>はまずる場合</li><li>はまずるの</li><li>はまずるの</li><li>はまずるの</li><li>はまずるの</li><li>はまずるの</li><li>はまずるの</li><li>はまずるの</li><li>はまずるの</li><li>はまずるの</li><li>はまずるの</li><li>はまずるの</li><li>はまずるの</li><li>はまずるの</li><li>はまずるの</li><li>はまずるの</li><li>はまずるの</li><li>はまずるの</li><li>はまずるの</li><li>はまずるの</li><li>はまずるの</li><li>はまずるの</li><li>はまずるの</li><li>はまずるの</li><li>はまずるの</li><li>はまずるの</li><li>はまずるの</li><li>はまずるの</li><li>はまずるの</li><li>はまずるの</li><li>はまずるの</li><li>はまずるの</li><li>はまずるの</li><li>はまずるの</li><li>はまずるの</li><li>はまずるの</li><li>はまずるの</li><li>はまずるの</li><li>はまずるの</li><li>はまずるの</li><li>はまずるの</li><li>はまずるの</li><li>はまずるの</li><li>はまずるの</li><li>はまずるの</li><li>はまずるの</li><li>はまずるの</li><li>はまずるの</li><li>はまずるの</li><li>はまずるの</li><li>はまずるの</li><li>はまずるの</li><li>はまずるの</li><li>はまずるの</li><li>はまずるの</li><li>はまずるの</li><li>はまずるの</li><li>はまずるの</li><li>はまずるの</li><li>はまずるの</li><li>はまずるの</li><li>はまずるの</li><li>はまずるの</li><li>はまずるの</li><li>はまずるの</li><li>はまずるの</li><li>はまずるの</li><li>はまずるの</li><li>はまずるの</li><li>はまずるの</li><li>はまずるの</li><li>はまずるの</li><li>はまずるの</li><li>はまずるの</li><li>はまずるの</li><li>はまずるの</li><li>はまずるの</li><li>はまずるの</li><li>はまずるの</li>&lt;</ul>		

											単位: mr
								規材	各 値		
編	章	節	条	枝番	工工種	測定項目	個々の (2	測定値 K)	10個の の平均 *面管 合は測 平	(X10) 理の場 定値の	測 定 基 準 測 定 箇 所 摘 要
							中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上		
3 土 木	2 一 般	6 一 般	9	1	排水性舗装工 (下層路盤工)	基準高▽	±40	±50	_		基準高は延長40m毎に1ヶ所の割とし、
工事共	施工	舗装工				厚さ	-45	-45	-15		測定。幅は、延長80m毎に1ヶ所の割に 基層及び表層用混合物の総使用量が 測定。ただし、幅は設計図書の測点に 3,000 t 以上の場合が該当する。 よらず延長80m以下の間隔で測定する 小規模工事とは、中規模以上の工事
通編						幅	-50	-50	_	_	ことができる。 より規模は小さいものの、管理結果を 施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場
											要領(案)」の規定による測点の管理 合が該当する。 方法を用いることができる。 コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版 等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。

単	位	:	mm

																			4-1	₩ : mm
								規	各値											
編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	個々の ()	0.47 - 11-	10個の の平面管 合は測 平	(X10) 理の場 定値の	測	定	基	準	測	定	筃	所	摘	要
							中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下										
3 土 木	2 一 般	6 一般な	9	2	排水性舗装工 (下層路盤工)	基準高▽	±90	±90	+40 -15	+50 -15	おいて「3 形管理要領	3 次元計 頁(案)	測技術を	と用いた出来 づき出来形管	いた上でのタ	上の工業	可能な	管理図等を描 工事をいい、	3-2-6-9	
工事共通	施工	舗装工			(面管理の場合)	厚さあるい は標高較差	±90	±90	+40 -15	+50 -15	定する計測	削精度・ こり出来	計測密度	きを満たす計	3,000 t 以上 小規模工	:の場合 事とは、	か該当 、中規	つ総使用量が iする。 模以上の工事 、管理結果を		
編												)計測値			施工管理に	マ映で 種の施	きる規	関の工事をい 日連続する場		
											全ての点で	で標高値 m²(平i	を算出す	剛全面とし、 ける。計測密 「積当たり)						
											4. 厚さに の標高値と			高値と当該層 '。						
											合は、直下 高較差平均	「層の目 対値+設 さする。	一標高さ- 標高さ- 計厚さた	<ul><li>ご評価する場</li><li>→直下層の標</li><li>→ら求まる高</li><li>→、基準高の</li></ul>						

											単位:
								規	各値		
編	章	節	条	枝番	工種	測定項目		測定値 X)	10個の の平均 *面管 合は測 平	(X10) 理の場 定値の	測 定 基 準 測 定 箇 所 摘 要
							中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下	
3 土 木	2 一 般	6 一 般	9	3	排水性舗装工 (上層路盤工)	厚さ	-25	-30	-8		幅は、延長80m毎に1ヶ所の割とし、厚 工事規模の考え方 さは、各車線200m毎に1ヶ所を掘り起 中規模以上の工事は、管理図等を描 こして測定。ただし、幅は設計図書の いた上での管理が可能な工事をいい、
工事共通	施工	舗 装 工			粒度調整路盤工	幅	-50	-50	_		測点によらず延長80m以下の間隔で測 定することができる。 基層及び表層用混合物の総使用量が 3,000 t 以上の場合が該当する。 小規模工事とは、中規模以上の工事
編											「3次元計測技術を用いた出来形管理 より規模は小さいものの、管理結果を要領(案)」の規定による測点の管理 施工管理に反映できる規模の工事をい方法を用いることができる。
											コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版 等に損傷を与える恐れのある場合は、 他の方法によることが出来る。

単位:mm 規格値 10個の測定値 の平均(X10) 個々の測定値 飾 測定項目 枝番 \* 面管理の場 定基 摘 要 章 T. 定箇 (X)合は測定値の 平均 中規模 小規模 中規模 小規模 以上 以下 以上 以下 3 6 排水性舗装工 1. 3次元データによる出来形管理に 工事規模の考え方 3-2-6-9 厚さあるい -63-8 -10 おいて「3次元計測技術を用いた出来 中規模以上の工事は、管理図等を描 土 -54は標高較差 木 般 (上層路盤工) 形管理要領(案)」に基づき出来形管 いた上での管理が可能な工事をいい、 工 施 舖 粒度調整路盤工 理を実施する場合、その他本基準に規 基層及び表層用混合物の総使用量が 事 工 装 定する計測精度・計測密度を満たす計 3,000 t 以上の場合が該当する。 共 工 (面管理の場合) 測方法により出来形管理を実施する場 小規模工事とは、中規模以上の工事 通 合に適用する。 より規模は小さいものの、管理結果を 施工管理に反映できる規模の工事をい 2. 個々の計測値の規格値には計測精い、同一工種の施工が数日連続する場 度として±10mmが含まれている。 合が該当する。 3. 計測は設計幅員の内側全面とし、 全ての点で標高値を算出する。計測密 度は1点/m<sup>2</sup>(平面投影面積当たり) 以上とする。 4. 厚さは、直下層の標高値と当該層 の標高値との差で算出する。 5. 厚さを標高較差として評価する場 合は、直下層の目標高さ+直下層の標 高較差平均値+設計厚さから求まる高 さとの差とする。

	I	ı	ı	1	T	I	ı				1				I				単	i位:mm
								規材	各値											
編	章	節	条	枝番	工  種	測定項目	個々の ()			(X10) 理の場 定値の	測	定	基	準	測	定	箇	所	摘	要
							中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下										
3 土 木	2 一 般	6 一 般	9	5	排水性舗装工 (上層路盤工)	厚さ	-25	-30	-8	-10	幅は、延長80 さは、1,000 m 取もしくは排	㎡に1個 屈り起	固の割っ こして	でコアーを採 〕 測定。ただ	中規模以 いた上での	上の工事 管理が同	可能な	工事をいい、		9
工事共通	施工	舗 装 工			セメント(石灰)安 定処理工	幅	-50	-50			し、幅は設計 80m以下の間 る。				3,000 t 以」 小規模工	:の場合 事とは、	が該当 中規	iする。 摸以上の工事	:	
編											「3次元計測 要領(案)」 方法を用いる	の規定	官による	る測点の管理	施工管理に	反映でき 種の施口	きる規	、管理結果を 関の工事をい 日連続する場		
															コアー採取 橋面舗装 等に損傷を 他の方法に	等でコラ 与える?	アー採り			

_						1	T					単位:m
									規格	各 値		
	編	幸	節	条	枝番	工種	測定項目	個々の ()	測定値 ()	の平均 <b>*</b> 面管 合は測	理の場	測 定 基 準 測 定 箇 所 摘 要
								中規模以上	小規模 以下	中規模以上	小規模 以下	
	3 土木工事共通編	2一般施工	6一般舗装工	9	6	排水性舗装工 (上層路盤工) セメント (石灰) 安 定処理工 (面管理の場合)	厚さあるいは標高較差		-63	-8	-10	1. 3次元データによる出来形管理において「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)」に基づき出来形管理を実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。 2. 個々の計測値の規格値には計測精度として±10mmが含まれている。 3. 計測は設計幅員の内側全面とし、全ての点で標高値を算出する。計測密度は1点/㎡(平面投影面積当たり)以上とする。 4. 厚さは、直下層の標高値と当該層の標高値との差で算出する。 5. 厚さを標高較差として評価する場合は、直下層の目標高さ+直下層の標高較差平均値+設計厚さから求まる高さとの差とする。 3-2-6-9 中規模以上の工事はいた上での管理が可能な工事をいい、基層及び表層用混合物の総使用量が3,000 t 以上の場合が該当する。小規模工事とは、中規模以上の工事より規模は小さいものの、管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合が該当する。  3. 計測は設計幅員の内側全面とし、全ての点で標高値を算出する。計測密度は1点/㎡(平面投影面積当たり)以上とする。

														単	位:mm
								規	各値						
編	章	節	条	枝番	工. 種	測定項目		測定値 ()	10個の の平 を 合 は 測 平	(X10) 理の場 定値の	測定基準	東 箇	所	摘	要
							中規模 以上	小規模 以下	中規模以上	小規模 以下					
3 土 木	2 一 般	6 一 般	9	7	排水性舗装工 (加熱アスファルト	厚さ	-15	-20	<b>-</b> 5	-7	は、延長80m毎に1ヶ所の割とし、厚工事規模は、1,000㎡に1個の割でコアーを採 中規模して測定。ただし、幅は設計図書のいた上で	以上の工事は、行 の管理が可能なご	管理図等を描 Ľ事をいい、	3-2-6-9	)
工事共	施工	舗 装 工			安定処理工)	幅	-50	-50	_		小規模	L上の場合が該当 工事とは、中規	する。 莫以上の工事		
編											3次元計測技術を用いた出来形管理 より規模領(案)」の規定による測点の管理 施工管理 法を用いることができる。	に反映できる規札 工種の施工が数	莫の工事をい		
											橋面舗等に損傷	取について 装等でコアー採り を与える恐れのる によることが出	ある場合は、		
3 土木工事共通編	2一般施工	6一般舗装工	9	8	排水性舗装工 (加熱アスファルト 安定処理工) (面管理の場合)	厚さあるいは標高較差	-36	-45	-5	-7	・3次元データによる出来形管理にいて「3次元計測技術を用いた出来管理の(案)」に基づき基準に対して、表層の他本基準に対したという。として計画は設計幅を実施する。 ・は1点/㎡(平面投影面積当たり)とする。 ・厚さは、直下層の目標高値と当該層標高値との差により出来の標高を当り、不可にある。・では1点/㎡(平面投影面積当たり)とする。・ででは1点/㎡(平面投影面積当たり)とする。・ででは1点/㎡(平面投影面積当たり)とする。・ででは1点/㎡(平面投影面積当たり)とする。・ででは1点/㎡(平面投影面積当たり)とする。・ででは1点/㎡(平面投影面積当たり)とする。・でででは、直下層の標高値と当該層標高値との差で算出する。・ででででででは、直下層の目標高が差として評価を対して対している場は、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では	以上の工事は、1 の管理が可能なご表層用混合物の 人上の場合が該当 工事とは、中規 は小さいものの、 に反映できる規 工種の施工が数	管理図等を描 工事をいい、 )総使用量が する。 糞以上の工事 管理結果を 糞の工事をい	3-2-6-9	

					<u> </u>			規札	各 値		単位	<u>位:mm</u>
編	章	節	条	枝番	工  種	測定項目	個々の ()		10個の の平均 *面管 合は測	(X10) 理の場		要
							中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上			
3 土 木	2 一 般 施	6 一 般	9	9	排水性舗装工 (基層工)	厚さ	-9	-12	-3	-4	幅は、延長80m毎に1ヶ所の割とし、厚工事規模の考え方 さは、1,000㎡に1個の割でコアーを採中規模以上の工事は、管理図等を描取して測定。ただし、幅は設計図書のいた上での管理が可能な工事をいい、	
工事共通	施工	舗 装 工				幅	-25	-25	_		測点によらず延長80m以下の間隔で測 基層及び表層用混合物の総使用量が 定することができる。 3,000 t 以上の場合が該当する。 小規模工事とは、中規模以上の工事	
通編											「3次元計測技術を用いた出来形管理 より規模は小さいものの、管理結果を 要領(案)」の規定による測点の管理 施工管理に反映できる規模の工事をい 方法を用いることができる。 合が該当する。 「3次元計測技術を用いた出来形管理 より規模は小さいものの、管理結果を に同一工種の施工が数日連続する場合が該当する。	
											コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版 等に損傷を与える恐れのある場合は、 他の方法によることが出来る。	

単位:mm 規格値 10個の測定値 の平均(X10) 個々の測定値 測定項目 章 枝番 \*面管理の場 定基 摘 要 T. 定箇 (X)合は測定値の 平均 中規模 小規模 中規模 小規模 以上 以下 以上 以下 3 10 排水性舗装工 1. 3次元データによる出来形管理に 工事規模の考え方 3-2-6-9 厚さあるい -25-3-4 おいて「3次元計測技術を用いた出来 中規模以上の工事は、管理図等を描 土 -20は標高較差 木 般 般 (基層工) 形管理要領(案)」に基づき出来形管 いた上での管理が可能な工事をいい、 理を実施する場合、その他本基準に規基層及び表層用混合物の総使用量が 工 施 舗 装 事 (面管理の場合) 定する計測精度・計測密度を満たす計 3,000 t 以上の場合が該当する。 共 I. 測方法により出来形管理を実施する場 小規模工事とは、中規模以上の工事 通 合に適用する。 より規模は小さいものの、管理結果を 施工管理に反映できる規模の工事をい 2. 個々の計測値の規格値には計測精い、同一工種の施工が数日連続する場 度として±4mmが含まれている。 合が該当する。 3. 計測は設計幅員の内側全面とし、 全ての点で標高値を算出する。計測密 度は1点/m<sup>2</sup>(平面投影面積当たり) 以上とする。 4. 厚さは、直下層の標高値と当該層 の標高値との差で算出する。 5. 厚さを標高較差として評価する場 合は、直下層の目標高さ+直下層の標 高較差平均値+設計厚さから求まる高 さとの差とする。

単位:mm 規格値 10個の測定値 の平均(X10) 個々の測定値 測定項目 章 枝番 \*面管理の場 定基 定箇 摘 要 工 (X)合は測定値の 平均 中規模 小規模 中規模 小規模 以上 以下 以上 以下 3 11 排水性舗装工 幅は、延長80m毎に1ヶ所の割とし、厚 工事規模の考え方 3-2-6-9 厚さ -9 -2-3 | さは、1,000m 毎に1個の割でコアーを 中規模以上の工事は、管理図等を描 土 -7般 木 (表層工) 採取して測定。ただし、幅は設計図書いた上での管理が可能な工事をいい、 施 舗 工 の測点によらず延長80m以下の間隔で 基層及び表層用混合物の総使用量が 装 事 幅 測定することができる。 3,000 t 以上の場合が該当する。 -25-25共 工 小規模工事とは、中規模以上の工事 通 より規模は小さいものの、管理結果を 「3次元計測技術を用いた出来形管理 3mプロフィル 要領(案)」の規定による測点の管理 施工管理に反映できる規模の工事をい メーター (σ)2.4mm以下 方法を用いることができる。 い、同一工種の施工が数日連続する場 合が該当する。 直読式(足付 平坦性 き) コアー採取について (σ)1.75mm以 橋面舗装等でコアー採取により床版 等に損傷を与える恐れのある場合は、 他の方法によることが出来る。 維持工事においては、平坦性の項目 を省略することが出来る。

																			単位:mm
								規	各値										
編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	個々の (∑		10個の の平均 *面管 合は測 平	(X10) 理の場 定値の	測	定	基	準	測	定	筃	所	摘 要
							中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下									
3 土 木	2 一 般	6 一 般	9	12	排水性舗装工 (表層工)	厚さあるい は標高較差		-20	-2	-3	おいて「3	次元計	測技術を	を用いた出来	工事規模の 中規模以 いた上での	上のエ		管理図等を描 丁事をいい	3-2-6-9
工事共通編	施工	(舗装工			(面管理の場合)	平坦性	-		3mプロット (σ)2.4(σ)2.4(百き) (百き)(σ)1.7	- mm以下 足付 5mm以	理定測合 2度 3全度以 4の 5合まる法適 個し 計の1と 厚高 厚、施計に用 々て 測点点す さ値 さ直で測よす の± はで/る はと を下	る精りる 計皿 設標㎡。 、の 標層値場度出。 測が 計高( 直差 高の+ で) 較目設	、計形 のま 員を面 層算 差標の密理 格で 内出影 標す しさ	也を 本本 基準にする 基準にする は。 で を実にはる。 で で で で で で で に で の の の ま た に の の の ま に の の の ま に の の の も に も に も に も に も の に も の に も の に も の に も の に も の に も の に も の に も の に も の に も の に も の に ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら	基層及び表3,000 t 以上 3,000 t 以上 より が は が に い た が が が が が が が が が が が が が が が が が が	層のとさ映のを おいで 値の といっと さいで 値い ない でんしい でんしい でんしい さい これい これい これい これい これい これい これい これい これい これ	合物の が 対中の も き が 中の る 数 て し る 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	つ総使用量が 付する。 関以上の工事 関管理結果を 関の工事を 関の連続する場 平坦性の項目	

									規	格値	
葯	扁	章	節	条	枝番	工工	測定項目	個	マの測定値 (X)	測定値の平均	測 定 基 準 測 定 箇 所 摘 要
									l模 小規模 上 以下	以上	
	3 E K	2 一 般	6 一 般	10	1	透水性舗装工	基準高▽	,	±50		基準高は片側延長40m毎に1ヶ所の割 で測定。 中規模以上の工事は、管理図等を描 厚さは、片側延長200m毎に1ヶ所掘り いた上での管理が可能な工事をいい、
	に事せ通	施工	舗 装 工				厚さ	t 15	- 30	-10	起こして測定。 基層及び表層用混合物の総使用量が幅は、片側延長80m毎に1ヶ所測定。 3,000 t 以上の場合が該当する。 ただし、幅は設計図書の測点によらず 小規模工事とは、中規模以上の工事
新	<b></b>						子で	t 15		-15	延長80m以下の間隔で測定することがより規模は小さいものの、管理結果をできる。 施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場
							幅		-100	_	※歩道舗装に適用する。 合が該当する。 「3次元計測技術を用いた出来形管理 コアー採取について
											要領(案)」の規定による測点の管理 橋面舗装等でコアー採取により床版 方法を用いることができる。

																		単位:m
								規 柞	各値									
編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	個々の ()		測定値の平均	測	定	基	準	測	定	筃	所	摘要
							中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上									
3 土 木	2 一 般	6 一 般	10	2	透水性舗装工(路盤工)	基準高▽	t < 15cm	+90 -70	$+50 \\ -10$	1. 3次元テ おいて「3次 形管理要領	マラス (元計) (案) 」	則技術を に基へ	と用いた出来 づき出来形管	中規模以_ いた上での	この工事 管理が同	可能な	工事をいい、	
工事共	施 工	舗 装 工			(面管理の場合)	盔华同 ∨	t ≧ 15cm	±90	+50 -15	理を実施する 定する計測精測方法により	青度・言 ) 出来用	十測密度	まを満たす計	3,000 t 以」 小規模工	:の場合 事とは、	が該当 中規	áする。 模以上の工事	
通編						厚さあるい	t < 15cm	+90 -70	$+50 \\ -10$	合に適用する 2. 個々の計	∤測値⊄		直には計測精	施工管理に い、同一工	マ映でる 種の施	きる規	、管理結果を 模の工事をい 日連続する場	
						は標高較差	t ≧ 15cm	±90	+50 -15	度として±10 3. 計測は設	計幅員	員の内側	全面とし、	合が該当す	る。			
										全ての点で標 度は1点/m 以上とする。								
										4. 厚さは、 の標高値との								
										5. 厚さを標合は、直下層 高較差平均値 さとの差とす	層の目標 生+設計	票高さ+	- 直下層の標					
										※歩道舗装に	適用す	<sup>-</sup> る。						

								規 格	各 値	于 <u>比</u> .
編	章	節	条	枝番	エ	重 測:	定項目	個々の測定値 (X)	測定値の平均	測 定 基 準 測 定 箇 所 摘 要
								中規模 小規模 以上 以下	中規模 以上	
3 土 木	2 一般	6 一般	10	3	透水性舗装工 (表層工)	J	厚さ	-9	-3	幅は、片側延長80m毎に1ヶ所の割で 工事規模の考え方 3-2-6-10 側定。 中規模以上の工事は、管理図等を描 厚さは、片側延長200m毎に1ヶ所コ いた上での管理が可能な工事をいい、
工事共	施 工	舗装工					幅	-25		アーを採取して測定。 基層及び表層用混合物の総使用量がただし、幅は設計図書の測点によらず 3,000 t 以上の場合が該当する。 延長80m以下の間隔で測定することが 小規模工事とは、中規模以上の工事
通編										できる。 ※歩道舗装に適用する。 ボカー・ボール より規模は小さいものの、管理結果を 施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合が該当する。 要領(案)」の規定による測点の管理
										方法を用いることができる。 コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版 等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。

																		- 単位	<u> </u>
								規	各値										
編	章	節	条	枝番	エ	種	測定項目	個々の測定値 (X)	測定値の平均	測	定	基	準	測	定	籄	所	摘	要
								中規模 小規模以上 以下	中規模 以上										
3 土木工事共通編	般施工	6一般舗装工	10	4	透水性舗装工(表層工)(面管理の場		厚さあるいと	-20	-3	形管理要領 理を実施する 定する計測より 合に適用する	欠(る青)ら、計画、投票が、「)、票置直に元案場度出。 測が 計高( 直差 高の+る計)合・来 値含 幅値平 下で 較目設。	則 計形 のま 員を面 層算 差漂計技にそ測管 規れ の算投 の出 と高厚術基の密理 格で 内出影 標す しささ	と	中規模以上の基別の1000 t以上は一次を受ける。 中規模での表別の100 t以上は一次の規規管である。 中国の地域を対しているが、 できない できない かいがい かいがい かいがい かいがい かいがい かいがい かいがい かい	上の工事で 層のとはいる を を を を と はいで 種の を を の と はいで 種の を の を を の た の と は い で で の た る た の た る た の た る た の た の た の た の た	可合物 という おうさい おうかい 中の あまり おいまい しょう おいまい はい おいまい おいまい おいまい おいまい おいまい おいまい はい かいしょう しょう しょう しょう しょう しょう しょう しょう しょう しょう	の総使用量が		0

								規格	各 値										単位	<u> </u>
編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	個々の ()		10個の の平 <b>*</b> 面管 合は測 平	(X10) 理の場 定値の	測	定	基	準	測	定	笛	所	摘	要
							中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下										
3 土木工事	2一般施工	6一般舗装	11		グースアスファルト 舗装工 (加熱アスファルト 安定処理工)	厚さ	-15 -50	-20 -50	<b>-</b> 5		幅は、延長8 さは、1,000 取して測定。 測点によらっ 定することが	㎡に1個 ただり が延長	固の割で ン、幅に 30m以下	でコアーを採 は設計図書の での間隔で測	中規模以 いた上での <sup>5</sup>	上の工事 管理が ·層用混	可能な 合物の	管理図等を描 工事をいい、 )総使用量が		Ĺ
+共通編	+	I			X. (24-1)	719	30	30				削技術を に基っ は、同 密度を消	を 用いた づき 出来 要領 に 関 に ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま	た出来形管理 来形管理を実 見定する計測 十測方法によ ことができ	小規模工 りり り り り り り り り に に に い が が に が が に い が に い が い が い が い	事小 反種る に等与る いっこう	中規 中の規 を を が 数 て アれの る れ で れ の れ の れ の れ の れ の れ の れ り れ の れ り れ の れ の	模以上の工事 関学理結果を 関の工事をい 関連続する場 取により床版 ある場合は、		

単位:mm 規格値 10個の測定値 の平均(X10) 個々の測定値 測定項目 章 枝番 \* 面管理の場 定基 摘 要 T. 定箇 (X)合は測定値の 平均 中規模 小規模 中規模 小規模 以上 以下 以上 以下 グースアスファルト 3 11 1. 3次元データによる出来形管理に 工事規模の考え方 3-2-6-11 厚さあるい 舗装工 -5 -7 おいて「3次元計測技術を用いた出来 中規模以上の工事は、管理図等を描 土 -36-45は標高較差 木 般 般 形管理要領(案)」に基づき出来形管 いた上での管理が可能な工事をいい、 理を実施する場合、その他本基準に規基層及び表層用混合物の総使用量が 工 施 舖 (加熱アスファルト 装 事 安定処理工) 定する計測精度・計測密度を満たす計 3,000 t 以上の場合が該当する。 共 工 測方法により出来形管理を実施する場 小規模工事とは、中規模以上の工事 通 (面管理の場合) 合に適用する。 より規模は小さいものの、管理結果を 施工管理に反映できる規模の工事をい 2. 個々の計測値の規格値には計測精い、同一工種の施工が数日連続する場 度として±10mmが含まれている。 合が該当する。 3. 計測は設計幅員の内側全面とし、 全ての点で標高値を算出する。計測密 度は1点/m<sup>2</sup>(平面投影面積当たり) 以上とする。 4. 厚さは、直下層の標高値と当該層 の標高値との差で算出する。 5. 厚さを標高較差として評価する場 合は、直下層の目標高さ+直下層の標 高較差平均値+設計厚さから求まる高 さとの差とする。

単位:mm 規格値 10個の測定値 の平均(X10) 個々の測定値 枝番 測定項目 \*面管理の場 定基 定箇 摘 要 章 工 (X)合は測定値の 平均 中規模 小規模 中規模 小規模 以上 以下 以上 以下 3 11 グースアスファルト 幅は、延長80m毎に1ヶ所の割とし、厚 工事規模の考え方 3-2-6-11 -4 さは、1,000 m<sup>2</sup>に1個の割でコアーを採 中規模以上の工事は、管理図等を描 土: 舗装工 厚さ -3-12木 般 取して測定。ただし、幅は設計図書のいた上での管理が可能な工事をいい、 工 施 舗 (基層工) 測点によらず延長80m以下の間隔で測基層及び表層用混合物の総使用量が 事 工 装 幅 定することができる。 3,000 t 以上の場合が該当する。 -25-25共 工 小規模工事とは、中規模以上の工事 通 「3次元計測技術を用いた出来形管理」より規模は小さいものの、管理結果を 要領(案) | に基づき出来形管理を実 施工管理に反映できる規模の工事をい 施する場合は、同要領に規定する計測い、同一工種の施工が数日連続する場 精度・計測密度を満たす計測方法によるが該当する。 り出来形管理を実施することができ る。 コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版 等に損傷を与える恐れのある場合は、 他の方法によることが出来る。

枝番

11

般

舗

装

工

T.

舗装工

(基層工)

グースアスファルト

(面管理の場合)

章

施

3

土

木

工

事

共

通

単位:mm 規格値 10個の測定値 の平均(X10) 個々の測定値 測定項目 \*面管理の場 定基 摘 要 定箇 (X)合は測定値の 平均 中規模 小規模 中規模 小規模 以上 以下 以上 以下 1. 3次元データによる出来形管理に 工事規模の考え方 3-2-6-11 厚さあるい -25-3おいて「3次元計測技術を用いた出来 中規模以上の工事は、管理図等を描 -20は標高較差 形管理要領(案)」に基づき出来形管 いた上での管理が可能な工事をいい、 理を実施する場合、その他本基準に規基層及び表層用混合物の総使用量が 定する計測精度・計測密度を満たす計 3,000 t 以上の場合が該当する。 測方法により出来形管理を実施する場 小規模工事とは、中規模以上の工事 より規模は小さいものの、管理結果を 合に適用する。 施工管理に反映できる規模の工事をい 2. 個々の計測値の規格値には計測精い、同一工種の施工が数日連続する場 度として±4mmが含まれている。 合が該当する。 3. 計測は設計幅員の内側全面とし、 全ての点で標高値を算出する。計測密 度は1点/m<sup>2</sup>(平面投影面積当たり) 以上とする。 4. 厚さは、直下層の標高値と当該層 の標高値との差で算出する。

5. 厚さを標高較差として評価する場合は、直下層の目標高さ+直下層の標高較差平均値+設計厚さから求まる高

さとの差とする。

											<u> </u>
								規	各値		
編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目		測定値 X)	10個の の平均 *面管 合は測 平	(X10) 理の場 定値の	測 定 基 準 測 定 箇 所 摘 要
							中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下	
3 土 木	2 一 般	6 一 般	11	5	グースアスファルト 舗装工	厚さ	-7	-9	-2	-3	幅は、延長80m毎に1ヶ所の割とし、厚 工事規模の考え方 3-2-6-11 さは、1,000㎡毎に1個の割でコアーを 中規模以上の工事は、管理図等を描 採取して測定。ただし、幅は設計図書 いた上での管理が可能な工事をいい、
工事共	施 工	舗 装 工			(表層工)	幅	-25	-25	_		の測点によらず延長80m以下の間隔で基層及び表層用混合物の総使用量が 測定することができる。 基層及び表層用混合物の総使用量が 3,000 t 以上の場合が該当する。 小規模工事とは、中規模以上の工事
通編						平坦性	-	_	3mプロフメータ〜 (σ)2.4 直読式( き) (σ)1.7 下	- 以下 足付	「3次元計測技術を用いた出来形管理 要領(案)」に基づき出来形管理を実施工管理に反映できる規模の工事をい施する場合は、同要領に規定する計測 精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施することができる。 つまれていて る。 コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、
											他の方法によることが出来る。 維持工事においては、平坦性の項目 を省略することが出来る。

単位:mm 規格値 10個の測定値 の平均(X10) 個々の測定値 枝番 測定項目 \*面管理の場 定基 摘 要 章 T. 定箇 (X) 合は測定値の 平均 中規模 小規模 中規模 小規模 以上 以下 以上 以下 3 11 グースアスファルト 1. 3次元データによる出来形管理に 工事規模の考え方 3-2-6-11 厚さあるい -3 おいて「3次元計測技術を用いた出来 舗装工 -20-2中規模以上の工事は、管理図等を描 土 -17は標高較差 木 般 般 形管理要領(案)」に基づき出来形管 いた上での管理が可能な工事をいい、 工 施 舗 3mプロフィル 理を実施する場合、その他本基準に規基層及び表層用混合物の総使用量が (表層工) 装 事 メーター 定する計測精度・計測密度を満たす計 3,000 t 以上の場合が該当する。 共 工 (面管理の場合) (σ)2.4mm以下 測方法により出来形管理を実施する場 小規模工事とは、中規模以上の工事 通 合に適用する。 より規模は小さいものの、管理結果を 直読式(足付 平坦性 施工管理に反映できる規模の工事をレ゙ き) 2. 個々の計測値の規格値には計測精い、同一工種の施工が数日連続する場 (σ)1.75mm以 度として±4mmが含まれている。 合が該当する。 3. 計測は設計幅員の内側全面とし、 維持工事においては、平坦性の項目 全ての点で標高値を算出する。計測密 を省略することが出来る。 度は1点/m<sup>2</sup>(平面投影面積当たり) 以上とする。 4. 厚さは、直下層の標高値と当該層 の標高値との差で算出する。 5. 厚さを標高較差として評価する場 合は、直下層の目標高さ+直下層の標 高較差平均値+設計厚さから求まる高 さとの差とする。

										早位:
								規	各値	
編	章	節	条	枝番	工種	測定項目		測定値 X)	10個の測定値 の平均(X10) *面管理の場 合は測定値の 平均	測 定 基 準 測 定 箇 所 摘 要
							中規模 以上	小規模 以下	中規模 小規模以上 以下	
3 土 木	2 一 般	6 一 般	12	1	コンクリート舗装工(下層路盤工)	基準高▽	±40	±50	_	基準高は、延長40m毎に1ヶ所の割と 工事規模の考え方 し、道路中心線及び端部で測定。厚さ 中規模とは、1層あたりの施工面積 は、各車線200m毎に1ヶ所を掘り起こ が2,000㎡以上とする。
工事共通	施工	舗装工			( 1 / 1 / 1 / 1 m. 1 / 1	厚さ	_	45		して測定。幅は、延長80m毎に1ヶ所の 割に測定。ただし、幅は設計図書の測 スファルト混合物の総使用量が500 t 点によらず延長80m以下の間隔で測定 未満あるいは施工面積が2,000㎡未
通編						幅	_	50	_	することができる。 満。 厚さは、個々の測定値が10個に9個 「3次元計測技術を用いた出来形管理以上の割合で規格値を満足しなければ
										要領(案)」に基づき出来形管理を実 ならないとともに、10個の測定値の平施する場合は、同要領に規定する計測 均値(X10)について満足しなければ精度・計測密度を満たす計測方法によならない。ただし、厚さのデータ数がり出来形管理を実施することができ 10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。
										コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版 等に損傷を与える恐れのある場合は、 他の方法によることが出来る。

HH /	11/	٠	mm
-	144		ШШ

								規格	各値		単位	
編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	個々の (∑		10個の の平 を 面管 合 は 測 平	(X10) 理の場 定値の	測 定 基 準 測 定 箇 所 摘 要	
							中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下		
3 土 木	2 一 般	6 一 般	12	2	コンクリート舗装工 (下層路盤工)	基準高▽	±90	±90	+40 -15	+50 -15	1. 3次元データによる出来形管理に 工事規模の考え方 3-2-6-12 おいて「3次元計測技術を用いた出来 中規模とは、1層あたりの施工面積 形管理要領(案)」に基づき出来形管が2,000㎡以上とする。	
工事共通	施 工	舗 装 工			(面管理の場合)	厚さあるい は標高較差	±90	±90	+40 -15	+50 -15	理を実施する場合、その他本基準に規 小規模とは、表層及び基層の加熱ア 定する計測精度・計測密度を満たす計 スファルト混合物の総使用量が500 t 測方法により出来形管理を実施する場 未満あるいは施工面積が2,000㎡未 満。	
編											回に	
											3. 計測は設計幅員の内側全面とし、 全ての点で標高値を算出する。計測密 度は1点/㎡(平面投影面積当たり) 以上とする。	
											4. 厚さは、直下層の標高値と当該層 の標高値との差で算出する。	
											5. 厚さを標高較差として評価する場合は、直下層の目標高さ+直下層の標高較差平均値+設計厚さから求まる高さとの差とする。この場合、基準高の評価は省略する。	

																			- 単	位:mm
								規材	各値											
編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	個々の ()	測定値 X)	10個の測定値 の平均(X10) *面管理の場 合は測定値の 平均	;	測	定	基	準	測	定	筃	所	摘	要
							中規模 以上	小規模 以下	中規模 小規模 以上 以下											
3 土 木	2 一 般	6 一 般	12	3	コンクリート舗装工 (粒度調整路盤工)	厚さ	-25	-30	-8	さは、名	5車線	200m有	承に1ヶ	の割とし、厚 - 所を掘り起 は設計図書の	中規模と	は、1	層あた	りの施工面積	3-2-6-1	2
工事共	施工	舗装工			,	幅	_	50	_		にらず.	延長8	Om以下	の間隔で測	小規模と スファルト	は、表 混合物	層及び 1の総使	基層の加熱ア [用量が500 t が2,000㎡未		
通編															満。 厚さは、 以上の割ら ならないと 均値(X10 ならない。	個々の を を と に だ し た だ し た だ し た し た た し た た し た し た し	測定値 値を満 、10個 いて厚さ	が10個に9個 足しなければ の測定値の平 足しなければ のデータ数が の平均値は適		
															コアー採取 橋面舗装 等に損傷を 他の方法に	等でコ 与える	アー採 恐れの			

										单位:m
								規 柞	各 値	
絲	<b>第</b>	節	条	枝番	工  種	測定項目	個々の ()		10個の測定値 の平均(X10) *面管理の場 合は測定値の 平均	測 定 基 準 測 定 箇 所 摘 要
							中規模 以上	小規模 以下	中規模 小規模 以上 以下	
3 ± *	: 一般	6 一 般	12	4	コンクリート舗装工 (粒度調整路盤工)	厚さあるい は標高較差	-55	-66		1. 3次元データによる出来形管理に 工事規模の考え方 3-2-6-12 おいて「3次元計測技術を用いた出来 中規模とは、1層あたりの施工面積 形管理要領(案)」に基づき出来形管 が2,000㎡以上とする。
工事史追稱		舗装工			(面管理の場合)					理を実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。  2. 個々の計測値の規格値には計測精度として±10mmが含まれている。  3. 計測は設計幅員の内側全面とし、全ての点で標高値を算出する。計測密度は1点/㎡(平面投影面積当たり)以上とする。  4. 厚さは、直下層の標高値と当該層の標高値との差で算出する。  5. 厚さを標高較差として評価する場合は、直下層の目標高さ+直下層の標高較差平均値+設計厚さから求まる高さとの差とする。

- HH /	11/	•	mm
	-/-	٠	1111111

																				1 <u>1/</u> : mm
								規	各値											
編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	個々のX (X		10個の測定値 の平均(X10) *面管理の場 合は測定値の 平均		測	定	基	進	測	定	筃	所	摘	要
							中規模 以上	小規模 以下	中規模 小規模 以上 以下											
3 土 木	2 一 般	6 一 般	12	5	コンクリート舗装工	厚さ	-25	-30	-8	さは、1	, 000 r	n²に1個	固の割`	でコアーを持	工事規模の表 中規模とい が2,000㎡以	は、1厘	層あたり	の施工面積	3-2-6-	12
工事	施工	舗装工			瀝青)安定処理工)	幅	- (	50		し、幅り	は設計	図書の	つ測点し	こよらず延長	小規模とル スファルト 未満あるい	は、表 昆合物	層及び基 の総使	用量が500 t		
共通編															満。	固々の だ規格 ともに こだし	測定値 値を満り 、10個の いて満り 、厚さの	が10個に9個 としなければ り測定値の平 としなければ りデータ数が		
															コアー採取り 橋面舗装等 等に損傷をり 他の方法に。	等でコ すえる:	アー採耳恐れのな			

単位:mm 規格値 10個の測定値 の平均(X10) 個々の測定値 測定項目 枝番 \*面管理の場 定基 摘 要 章 工 定箇 (X)合は測定値の 平均 中規模 小規模 中規模 小規模 以上 以下 以上 以下 3 12 コンクリート舗装工 1. 3次元データによる出来形管理に 工事規模の考え方 3-2-6-12 厚さあるい -8 おいて「3次元計測技術を用いた出来 中規模とは、1層あたりの施工面積 土 -55-66は標高較差 木 般 般 (セメント (石灰・ 形管理要領(案)」に基づき出来形管が2,000㎡以上とする。 工 施 舖 瀝青) 安定処理工) 理を実施する場合、その他本基準に規 小規模とは、表層及び基層の加熱ア 装 定する計測精度・計測密度を満たす計スファルト混合物の総使用量が500 t 事 共 工 (面管理の場合) 測方法により出来形管理を実施する場<br/>
未満あるいは施工面積が2,000㎡未 通 合に適用する。 2. 個々の計測値の規格値には計測精 度として±10mmが含まれている。 3. 計測は設計幅員の内側全面とし、 全ての点で標高値を算出する。計測密 度は1点/m<sup>2</sup>(平面投影面積当たり) 以上とする。 4. 厚さは、直下層の標高値と当該層 の標高値との差で算出する。 5. 厚さを標高較差として評価する場 合は、直下層の目標高さ+直下層の標 高較差平均値+設計厚さから求まる高 さとの差とする。

																		単位:	. mm
								規材	各値										
編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	個々の (∑		10個の測定値 の平均(X10) *面管理の場 合は測定値の 平均	測	定	基	準	測	定	笛	所	摘要	
							中規模 以上	小規模 以下	中規模 小規模以上 以下										
3 土 木	2 一 般	6 一 般	12	7	コンクリート舗装工 (アスファルト中間	厚さ	-9	-12	-3	さは、1,000 取して測定	)㎡に1 , ただ	個の割 <sup>*</sup> し、幅	の割とし、厚 でコアーを採 は設計図書の	中規模と が2,000㎡以	は、1層		の施工面積	3-2-6-12	
工事共通	施工	舗装工			層)	幅	_	25	_	測点によら 定すること:	ず延長	:80m以 <sup>-</sup>	ドの間隔で測	小規模と スファルト	は、表 混合物	層及び の総使	基層の加熱ア 用量が500 t が2,000 ㎡未		
通編																	が10個に9個 足しなければ		
														ならないと 均値(X10	ともに、	、10個の	の測定値の平 足しなければ		
																	のデータ数が の平均値は適		
														コアー採取 橋面舗装 等に損傷を 他の方法に	等でコ 与える;	アー採E 恐れのる			

単位	:	mm

										单位:n
								規格	各 値	
編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	個々の (∑		10個の測定値 の平均(X10) *面管理の場 合は測定値の 平均	測 定 基 準 測 定 箇 所 摘 要
							中規模 以上	小規模 以下	中規模 小規模以上 以下	
3 土 木 工	2 一般施	6一般舗	12	8	コンクリート舗装工 (アスファルト中間 層)	厚さあるい は標高較差	-20	-27	-3	1. 3次元データによる出来形管理に 工事規模の考え方 3-2-6-12 おいて「3次元計測技術を用いた出来 中規模とは、1層あたりの施工面積 形管理要領(案)」に基づき出来形管 が2,000㎡以上とする。 理を実施する場合、その他本基準に規 小規模とは、表層及び基層の加熱ア
上事共通編	工	装工			僧) (面管理の場合)					定を実施する場合、その他や基準に成一
形冊										2. 個々の計測値の規格値には計測精 度として±4mmが含まれている。
										3. 計測は設計幅員の内側全面とし、 全ての点で標高値を算出する。計測密 度は1点/㎡(平面投影面積当たり) 以上とする。
										4. 厚さは、直下層の標高値と当該層の標高値との差で算出する。
										5. 厚さを標高較差として評価する場合は、直下層の目標高さ+直下層の標高較差平均値+設計厚さから求まる高さとの差とする。

単位:mm 規格値 10個の測定値 の平均(X10) 個々の測定値 枝番 測定項目 \*面管理の場 章 Т. 定 基 定 摘 要 (X) 合は測定値の 平均 中規模 小規模 中規模 小規模 以上 以下 以上 以下 3 12 コンクリート舗装工 厚さは、各車線の中心付近で型枠据付工事規模の考え方 3-2-6-12 厚さ -10土 -3.5後各車線200m毎に水糸またはレベルに 中規模とは、1層あたりの施工面積 木 般 般 より1測線当たり横断方向に3ヶ所以上が2,000㎡以上とする。 (コンクリート舗装 工 施 舗 版工) 測定、幅は、延長80m毎に1ヶ所の割で 小規模とは、表層及び基層の加熱ア 工 装 事 幅 -25測定。平坦性は各車線毎に版縁から1m スファルト混合物の総使用量が500 t 共 工 の線上、全延長とする。 未満あるいは施工面積が2,000㎡未 通 コンクリート なお、スリップフォーム工法の場合 厚さは、個々の測定値が10個に9個 の硬化後、 は、厚さ管理に関し、打設前に各車線以上の割合で規格値を満足しなければ 3mプロフィル |の中心付近で各車線200m毎に水糸また||ならないとともに、10個の測定値の平 メーターによ はレベルにより1測線当たり横断方向 均値(X10)について満足しなければ り機械舗設の 場合(σ)2.4mm に3ヶ所以上路盤の基準高を測定し、ならない。ただし、厚さのデータ数が 平坦性 測定打設後に各車線200m毎に両側の版 10個未満の場合は測定値の平均値は適 人力舗設の場 端を測定する。ただし、幅は設計図書用しない。 合(σ)3mm以下 の測点によらず延長80m以下の間隔で 測定することができる。 維持工事においては、平坦性の項目 を省略することが出来る。 隣接する各目地に対して、道路中心線 及び端部で測定。 目地段差  $\pm 2$ 

									単位:n
							規 相	各値	
編	章	節	条	枝番	工. 種	測定項目	個々の測定値 (X)	10個の測定値 の平均(X10) *面管理の場 合は測定値の 平均	測定基準測定箇所摘要
							中規模 小規模 以上 以下	中規模 小規模以上 以下	
3 土 木 工	2 一 般 施	6一般舗	12		コンクリート舗装工 (コンクリート舗装 版工)	厚さあるい は標高較差		-3.5	1. 3次元データによる出来形管理に おいて「3次元計測技術を用いた出来 中規模とは、1層あたりの施工面積 形管理要領(案)」に基づき出来形管 理を実施する場合、その他本基準に規 小規模とは、表層及び基層の加熱ア
事共通編	I	装工			(面管理の場合)	平坦性		メーターによ り機械舗設の 場合(σ)2.4mm 以下 人力舗設の場	定する計測精度・計測密度を満たす計 測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。  2. 個々の計測値の規格値には計測精度として±4mmが含まれている。  3. 計測は設計幅員の内側全面とし、全ての点で標高値を算出する。計測密度は1点/㎡(平面投影面積当たり)以上とする。  4. 厚さは、直下層の標高値と当該層の標高値との差で算出する。  5. 厚さを標高較差として評価する場合は、直下層の目標高さ+直下層の標高較差平均値+設計厚さから求まる高さとの差とする。
						目地段差	±	-2	隣接する各目地に対して、道路中心線 及び端部で測定。

		1	ı			_					1								単	位:mm
								規	各値											
編	章	節	条	枝番	工. 種	測定項目		測定値 X)	10個の の平均 *面管 合は測 平	(X10) 理の場 定値の	測	定	基	準	測	定	箇	所	摘	要
							中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下										
3 土 木	2 一 般 施	6 一 般	12	11	コンクリート舗装工 (転圧コンクリート	基準高▽	±40	±50	-	_	基準高は、3 し、道路中心 は、各車線2	<b>小線及</b>	び端部っ	で測定。厚さ	中規模と	は、1層		の施工面積	3-2-6-1	12
工事共	施工	舗 装 工			版工) 下層路盤工	厚さ	_	45	_		して測定。幅 割に測定。た 点によらず <b></b>	こだし、	、幅は記	受計図書の測	スファルト	混合物	の総使	用量が500 t		
通編						幅	_	50	_	_	することがで	ぎきる。			以上の割合	で規格値	直を満	が10個に9個 足しなければ		
															均値(X10 ならない。	)につい ただし、	ハて満り厚さい	の測定値の平 足しなければ のデータ数が の平均値は適		

単位	:	mm
----	---	----

		1				1						•
								規格	各 値			
編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	個々の (∑		10個の の平均 *面管 合は測 平	(X10) 理の場 定値の	測 定 基 準 測 定 箇 所 摘 要	
							中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下		
3 土 木	2 一 般	6 一 般	12		コンクリート舗装工 (転圧コンクリート	基準高▽	±90	±90	+40 -15	+50 -15	1. 3次元データによる出来形管理に 工事規模の考え方 3-2-6-12 おいて「3次元計測技術を用いた出来 中規模とは、1層あたりの施工面積 形管理要領(案)」に基づき出来形管 が2,000㎡以上とする。	
工事共	施 工	舗 装 工			版工) 下層路盤工	厚さあるい は標高較差	±90	±90	$^{+40}_{-15}$		理を実施する場合、その他本基準に規 定する計測精度・計測密度を満たす計 測方法により出来形管理を実施する場 未満あるいは施工面積が2,000㎡未	
通編					(面管理の場合)						合に適用する。 満。 満。	
											2. 個々の計測値の規格値には計測精 度として±10mmが含まれている。	
											3. 計測は設計幅員の内側全面とし、 全ての点で標高値を算出する。計測密 度は1点/㎡(平面投影面積当たり) 以上とする。	
											4. 厚さは、直下層の標高値と当該層 の標高値との差で算出する。	
											5. 厚さを標高較差として評価する場合は、直下層の目標高さ十直下層の標高較差平均値+設計厚さから求まる高さとの差とする。この場合、基準高の評価は省略する。	

																			単位	位:mm
								規	各値											
編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	個々の (∑	測定値 ()	10個の測定 の平均(X1 *面管理の 合は測定値 平均	.0)	測	定	基	準	測	定	籄	所	摘	要
							中規模 以上	小規模 以下	中規模 小規以上 以											
3 土 木	2 一 般	6 一 般	12	13	コンクリート舗装工 (転圧コンクリート	厚さ	-25	-30	-8		さは、各車	線200m	毎に1ヶ	所を掘り起	工事規模の 中規模と が2,000㎡以	は、1層		の施工面積	3-2-6-1	12
工事共	施工	舗 装 工			版工) 粒度調整路盤工	幅	Ī	50	ĺ		測点によら 定すること;			の間隔で測	スファルト 未満あるV	混合物	の総使	基層の加熱ア 用量が500 t が2,000 ㎡未		
通 編															以上の割合 ならないと 均値 (X10) ならない。	で規格値 ともにい ただし、	直を満足 10個の で満足 厚さの	が10個に9個に9個 としなければ 2測定値の平 としなければ 0データ数が 0平均値は適		
3 土木工事共通編	2一般施工	6 一般舗装工	12	14	コンクリート舗装工 (転圧コンクリート 版工) 粒度調整路盤工 (面管理の場合)	厚さあるいは標高較差	-55	-66	-8		お形理定測合 $2$ 度 $3$ 全度以 $4$ の $5$ 合い管をす方に .と .では上 .標 .はて理実る法適 個し 計の $1$ と 厚高 厚、て要施計に用 々て 測点点す さ値 さ直 さ直 はで「る。はと を下	次(る精りる 計0 設標ポー、の 標層値元案場度出。 測皿 計高( 直差 高の+計)合・来 値が 幅値平 下で 較目設	側」、計形 の含 員を缸 層草 差標療法の密理 格れ 内出影 樗す しさべき 化で面 積る です	を 用いた 単一 に 用いた 出来 管規 計場 と 一 に 上 出来 に する と まままままままままままままままままままままままままままままままままま		は、1層 (上とす は、表層 混合物の	る。 引及び基 O総使用	基層の加熱ア 引量が500 t	3-2-6-1	12

																			里 里	位:mm
								規	各 値											
編	章	節	条	枝番	工  種	測定項目		)測定値 X)	10個の測 の平均( *面管理 合は測定 平均	X10) 里の場 È値の	測	定	基	準	測	定	箇	所	摘	要
							中規模 以上	小規模 以下		小規模 以下										
3 土 木	2 一 般	6 一 般	12	15	コンクリート舗装工	厚さ	-25	-30	-8	3	さは、1,000	m² に1	個の割	の割とし、厚 でコアーを採 こ測定。 ただ	中規模と	は、1層		の施工面積	3-2-6-1	12
工事共通	施工	舗 装 工			版工) セメント (石灰・瀝青) 安定処理工	幅	_	50	_		し、幅は設計	計図書	の測点	こよらず延長 ることができ	小規模と スファルト	は、表 混合物	層及び基 の総使			
編												の規	定によ	た出来形管理 る測点の管理 な。	以上の割合 ならないと 均値 (X10) ならない。	で規格 ともに につ ただし	値を満足 、10個の いて満足 、厚さの	足しなければ の測定値の平 足しなければ		
															コアー採取 橋面舗装等 等に損傷を 他の方法に	等でコ 与える:	アー採耳 恐れのま			

現 格 値																				単/	立:mm
編 章 節 条 枝番 工 種   測定項目									規	各値											
3 2 6 7 2 7 2 12 16 コンクリート舗装工 (転圧コンクリート	編	章	節	条	枝番	工工種	測定項目			の平均 *面管 合は測	J(X10) 理の場  定値の	測	定	基	準	測	定	醟	所	摘	要
土   一   根   放工   放工   大阪工   大阪工																					
	土木工事共通	般施工	般舗装	12		(転圧コンクリート版工) セメント (石灰・瀝青) 安定処理工	は標高較差	FF		_	-8	お形理定測合 2度 3全度以 4の 5合高い管をす方に と . ては上 . 標 . は較い管をす方に . と . ては上 . 標 . は較い 1 では、 と . では上 . 標 . は較い 2 では、 と では、 と でした。 と でしたい。 と でした。 と でしたい。 と でした。 と でしたい。 と でした。 と でしたい。 と でした。 と でしたい。 と でした。 と でしたい。 と でした。 と でしたい。 と でした。 と でしたいた。 と でしたいた。 と でした。 と でした。 と でした。 と でした。 と でした。 と	3頁(つ)計のでは、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、で	測」、計形 の含 員を面 層算 差標技にそ測管 規ま の算投 の出 と高く の名 で は で は で しさ	を $\overline{C}$ が $\overline{C}$ を $\overline{C}$	中規模とV が2,000㎡以 小規模とV スファるいV 未満。	t、1層 上とす t、表属 昆合物の	る。	基層の加熱ア 月量が500 t	3-2-6-1	2

										単位	: mm
								規	各値		
編	章	節	条	枝番	工種	測定項目		測定値 X)	10個の測定値 の平均(X10) *面管理の場 合は測定値の 平均		tht/
							中規模 以上	小規模 以下	中規模 小規模 以上 以下		
3 土 木	2 一般	6 一 般	12	17	コンクリート舗装工 (転圧コンクリート	厚さ	-9	-12	-3	幅は、延長80m毎に1ヶ所の割とし、厚工事規模の考え方 3-2-6-12 さは、1,000㎡に1個の割でコアーを採 中規模とは、1層あたりの施工面積 取して測定。ただし、幅は設計図書の が2,000㎡以上とする。	
工事共	施工	舗装工			版工) アスファルト中間層	幅	_	25	_	測点によらず延長80m以下の間隔で測 小規模とは、表層及び基層の加熱ア 定することができる。 スファルト混合物の総使用量が500 t 未満あるいは施工面積が2,000 ㎡未	
通編										満。     厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10個の測定値の平均値(X10)について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。	
										コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版 等に損傷を与える恐れのある場合は、 他の方法によることが出来る。	

単位:mm 規格値 10個の測定値 の平均(X10) 個々の測定値 測定項目 章 枝番 \*面管理の場 定基 摘 要 工 定箇 (X)合は測定値の 平均 中規模 小規模 中規模 小規模 以上 以下 以上 以下 3 12 18 コンクリート舗装工 1. 3次元データによる出来形管理に 工事規模の考え方 3-2-6-12 厚さあるい -27-3おいて「3次元計測技術を用いた出来 中規模とは、1層あたりの施工面積 土 -20は標高較差 木 般 般 (転圧コンクリート 形管理要領(案)」に基づき出来形管が2,000㎡以上とする。 工 施 舖 版工) 理を実施する場合、その他本基準に規 小規模とは、表層及び基層の加熱ア 装 定する計測精度・計測密度を満たす計スファルト混合物の総使用量が500 t 事 アスファルト中間層 共 工 測方法により出来形管理を実施する場<br/>
未満あるいは施工面積が2,000㎡未 通 (面管理の場合) 合に適用する。 2. 個々の計測値の規格値には計測精 度として±4mmが含まれている。 3. 計測は設計幅員の内側全面とし、 全ての点で標高値を算出する。計測密 度は1点/m<sup>2</sup>(平面投影面積当たり) 以上とする。 4. 厚さは、直下層の標高値と当該層 の標高値との差で算出する。 5. 厚さを標高較差として評価する場 合は、直下層の目標高さ+直下層の標 高較差平均値+設計厚さから求まる高 さとの差とする。

HH /	11	٠	mm
	14.		шш

											単位:mm
							規 棋	各値			
編	章	節	条	枝番	工  種	測定項目	個々の測定値 (X)	10個の測定値 の平均(X10) *面管理の場 合は測定値の 平均	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
							中規模 小規模 以上 以下	中規模 小規模 以上 以下			
3 土 木	2 一 般	6 一 般	12	19	コンクリート舗装工 (転圧コンクリート	厚さ	-15	<b>−</b> 4. 5	厚さは、各車線の中心付近で型枠据付 後各車線200m毎に水糸またはレベルに より1測線当たり横断方向に3ヶ所以上が	中規模とは、1層あたりの施工面積	3-2-6-12
工事共	施 工	舗装工			版工)	幅	-35	_	測定、幅は、延長80m毎に1ヶ所の割で 測定、平坦性は各車線毎に版縁から1mラの線上、全延長とする。ただし、幅はま	スファルト混合物の総使用量が500 t 未満あるいは施工面積が2,000㎡未	
通 編 -						平坦性	_	転圧コンク リートの硬化 後、 3mプロフィル メーターによ り(σ)2.4mm以 下	「3次元計測技術を用いた出来形管理が要領(案)」の規定による測点の管理が 方法を用いることができる。 1	厚さは、個々の測定値が10個に9個 以上の割合で規格値を満足しなければ ならないとともに、10個の測定値の平	
						目地段差	<u>+</u>	= 2	及 O Aiii ph く MA Co	コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版 等に損傷を与える恐れのある場合は、	
									ft	他の方法によることが出来る。 維持工事においては、平坦性の項目 を省略することが出来る。	

									単位:
							規 棋	各 値	
編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	個々の測定値 (X)	10個の測定値 の平均(X10) *面管理の場 合は測定値の 平均	測定基準測定箇所擴要
							中規模 小規模以上 以下	中規模 小規模 以上 以下	
3 土 木	2 一 般	6 一 般	12	20	コンクリート舗装工 (転圧コンクリート	厚さあるい は標高較差	-32	<b>-4.</b> 5	1. 3次元データによる出来形管理に 工事規模の考え方 3-2-6-12 おいて「3次元計測技術を用いた出来 中規模とは、1層あたりの施工面積 形管理要領(案)」に基づき出来形管 が2,000㎡以上とする。
工事共通編	施工.	舗装工			版工) (面管理の場合)	平坦性		リートの硬化 後、 3mプロフィル メーターによ り(σ)2.4mm以 下	理を実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。  2. 個々の計測値の規格値には計測精度として±4mmが含まれている。  3. 計測は設計幅員の内側全面とし、全ての点で標高値を算出する。計測密
									度は1点/㎡(平面投影面積当たり)以上とする。  4. 厚さは、直下層の標高値と当該層の標高値との差で算出する。  5. 厚さを標高較差として評価する場
									合は、直下層の目標高さ+直下層の標 高較差平均値+設計厚さから求まる高 さとの差とする。
						目地段差	±	=2	隣接する各目地に対して、道路中心線 及び端部で測定。

HH /	11/	٠	mm
	14.		шш

																			単位:mm
								規材	各 値										
編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	個々の ()		10個の の平均 *面管 合は測 平	(X10) 理の場 定値の	測	定	基	準	測	定	筃	所	摘要
							中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下									
3 土 木	2 一 般	6 一 般	13	1	薄層カラー舗装工 (下層路盤工)	基準高▽	±40	±50	_	_	し、道路中	心線及	び端部で	lヶ所の割と で測定。厚さ ffを掘り起こ	中規模と	は、1層		の施工面積	3-2-6-13
工事共	施工	舗装工			(   /	厚さ	_	45	-:	15				毎に1ヶ所の		は、表層 混合物の	層及び基 の総使	用量が500 t	
通編						幅	_	50	_	_		」の規	定による		満。 厚さは、 以上の割合	個々の? で規格値	測定値 直を満足	が10個に9個 としなければ	
															ならないと 均値(X10) ならない。 10個未満の 用しない。	ここい につい ただし、	へて満足 厚さ <i>の</i>	しなければ )データ数が	
3 土 木	2 一 般	6 一 般	13	2	薄層カラー舗装工 (上層路盤工)	厚さ	-25	-30	_	·8		三線200m		の割とし、厚 r 所を掘り起		は、1層		の施工面積	3-2-6-13
工事共	施工	舗装工			粒度調整路盤工	幅	_	50		_	要領 (案)	」の規	定による	た出来形管理 る測点の管理	スファルト	混合物	の総使		
通編											方法を用い	ることが	ができる		満。 厚さは、 以上の割合 ならないと 均値(Xとり ならな未満の 10個未満い。	で規格(l ともに、 ) につい ただし、	直を満足 10個の いて満足 厚さの	)測定値の平 しなければ )データ数が	

																		単位:	mm
								規材	各値										
編	章	節	条	枝番	工種	測定項目		測定値	10個の測定値 の平均(X10) *面管理の場 合は測定値の 平均	測	定	基	準	測	定	筃	所	摘要	
							中規模 以上	小規模 以下	中規模 小規模 以上 以下										
3 土 木	2 一 般	6 一 般	13	3	薄層カラー舗装工 (上層路盤工)	厚さ	-25	-30	-8		0 m² に1	個の割	でコアーを持	工事規模の 中規模と が2,000㎡リ	は、1月	国あたり	の施工面積	3-2-6-13	
工事共通	施工	舗装工			セメント (石灰) 安 定処理工	幅	_	50	_	要領 (案)	」の規	定によ	る測点の管理	小規模と リスファルト 日未満あるい	混合物	の総使			
通編										方法を用い	ること:	ができる	5	以上の割合 ならない。 10個未満の 用しない。 コアー採取	でと)た場 に等与れないこと にだら いっこる	値、10個 10個 10個 10個 10個 10個 10個 10個			

																			単1	<u>立:mr</u>
								規材	各 値											
編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	個々の ()		10個の測定値 の平均(X10) *面管理の場 合は測定値の 平均		測	定	基	準	測	定	筃	所	摘	要
							中規模 以上	小規模 以下	中規模 小規模 以上 以下											
3 土 木	2 一 般	6 一 般	13	4	薄層カラー舗装工 (加熱アスファルト	厚さ	-15	-20	<b>-</b> 5		, 000 n				が2,000 m² り	は、1 人上と	層あたり する。	の施工面積		3
工事共通	施工	舗 装 工			安定処理工)	幅	_	50	1	要領(第	(学	の規定	官による	る測点の管理	!スファルト	混合物	かの総使	基層の加熱ア [用量が500 t が2,000 ㎡未		
通 編 -										方法を用	目いる。	ことか	ぶできる	0 0	以上の割合 ならないと 均値(X10 ならない。	で規格 ともに ) ただし	値を満 、10個 いて満 、厚さ	が10個に9個 足しなければ の測定値の平 足しなければ のデータ数が の平均値は適		
															コアー採取 橋面舗装 等に損傷を 他の方法に	等でコ 与える	アー採.恐れの			

																		単位:mm
								規 柞	各値									
編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	個々の (2		10個の測定値 の平均(X10) *面管理の場 合は測定値の 平均	測	定	基	準	測	定	筃	所	摘要
							中規模 以上	小規模 以下	中規模 小規模 以上 以下									
3 土 木	2 一 般	6 一 般	13	5	薄層カラー舗装工 (基層工)	厚さ	-9	-12	-3		00 ㎡ に1		り割とし、厚 でコアーを採	工事規模の 中規模と が2,000㎡以	は、1層		の施工面積	3-2-6-13
工事共	施工	舗装工			, , ,	幅	_	25	_	「3次元言 要領(案)	十測技術 」の規	定による	る測点の管理	小規模と スファルト 未満あるい	は、表属 混合物	層及び基 の総使		
通編										方法を用い	いること:	ができる	0 0	以上の割合 ならないと 均値 (X10) ならない。 10個未満の 用しない。	で規格値といいます。といいます。これでは、いいます。これは、いいます。	直を満足 10個の いて厚満足 厚定値の	己しなければ	
														等に損傷を他の方法に	等でコス 与えるこ よるこ	アー採耳 恐れの a	2 30 III 1 1 1 1 1	
3 土 木	2 一 般	6 一 般	14	1	ブロック舗装工 (下層路盤工)	基準高▽	±40	±50	_	し、道路では、各車組	ト心線及 線200m毎	び端部で	で測定。厚さ fを掘り起こ	が2,000 m² 以	は、1層 (上とす	る。	の施工面積	3-2-6-14
工事共	施 工	舗装工				厚さ	_	45	-15	して測定。 割に測定。	幅は、	延長80m	毎に1ヶ所の		混合物	の総使		
通編						幅	_	50	-					以上の割合	で規格値	直を満足		
														ならないと 均値 (X10) ならない。 10個未満の 用しない。	につい ただし、	ハて満足 厚さの	ワデータ数が	

																			単位	: mm
								規格	各 値											
編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	個々の ()		10個の測定値 の平均(X10) *面管理の場 合は測定値の 平均		測	定	基	準	測	定	箇	所	摘 要	Ąн,
							中規模 以上	小規模 以下	中規模 小規模 以上 以下											
3 土 木	2 一 般	6 一 般	14	2	ブロック舗装工 (上層路盤工)	厚さ	-25	-30	-8	さは、				り割とし、厚 - 所を掘り起	工事規模の 中規模と が2,000㎡以	は、1層		の施工面積	3-2-6-14	
工事共	施工	舗装工			粒度調整路盤工	幅	-	50			74720				小規模と スファルト	は、表層 混合物。	層及び の総使	基層の加熱ア 用量が500 t が2,000㎡未		
通編															満。 厚さは、 以上の割合 ならないと 均値(X10) ならない。	個々の? で規格値 ともに、 ただし、	測定値 直を満り 10個の で で で で で で で で で で で あっこ で あっこ で あっこ で あっこ で あっこ で あっこ で あっこ で あっこ で あっこ で あっこ で り の に り に り に り で り で り で り で り で り で り で り	が10個に9個 さしなければ 0測定値の平 さしなければ		
3	2	6	14	3	ブロック舗装工										工事規模の		3 h h h		3-2-6-14	
土木	般	般			(上層路盤工)	厚さ	-25	-30	-8				固の割っ □して測	でコアーを採  定。	が2,000㎡以	上とす	る。	の施工面積		
工事共	施 工	舗 装 工			セメント(石灰) 安定処理工	幅	-	50	_						スファルト 未満あるい	混合物	の総使	基層の加熱ア 用量が500 t が2,000 ㎡未		
通編															以上の割合 ならないと 均値 (X10) ならない。 10個未満の 用しない。 コアー採取	でと」た場  こ等与格につしは  いコる系	直 10 間 で P 型 で P T P T P T P T P T P T P T P T P T P	さしなければ カデータ数が カ平均値は適 なにより床版 ある場合は、		

																		里1	<u> </u>
								規	各値										
編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	個々の (2	測定値	10個の測定値 の平均(X10) *面管理の場 合は測定値の 平均	測	定	基	準	測	定	箇	所	摘	要
							中規模 以上	小規模 以下	中規模 小規模 以上 以下										
3 土木	2 一 般	6 一 般	14	4	ブロック舗装工 (加熱アスファルト	厚さ	-15	-20	-5		0 m² に1		の割とし、厚 でコアーを採	工事規模の 中規模と が2,000㎡以	は、1層		の施工面積	3-2-6-1	4
工事共通	施 工	舗装工			安定処理工)	幅	_	50	_					小規模と スファルト 未満あるい	混合物	の総使			
通編														満。 厚さは、 以上の割合 ならないと、 均値 (X10) ならない。 10個未満の 用しない。	で規格( ともに、 につ! ただし、	値を満足 、10個の いて満足 、厚さの	O測定値の平 Eしなければ Oデータ数が		
														コアー採取し 橋面舗装等 等に損傷を 他の方法に。	等でコ 与える:	アー採耳 恐れのあ			

																		単位	: mm
								規	各 値										
編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	個々の ()		10個の測定値 の平均(X10) *面管理の場 合は測定値の 平均	測	定	基	準	測	定	籄	所	摘要	Î.
							中規模 以上	小規模 以下	中規模 小規模 以上 以下										
3 土 木	2 一 般	6 一 般	14	5	ブロック舗装工 (基層工)	厚さ	-9	-12	-3	1,000			り割とし、厚 でコアーを採	が2,000㎡以	は、1년 人上とす	層あたり ⁻る。	)の施工面積		
工事共	施工	舗装工				幅	_	25	_					スファルト 未満あるい	混合物	の総使	基層の加熱ア 用量が500 t が2,000㎡未		
共通編														以上の割合 ならないと 均値(X10 ならない。	で規格 ともに ただし	値を満り 、10個の いて満り 、厚さの	が10個に9個 足しなければ り測定値の平 足しなければ のデータ数が の平均値は適		
														コアー採取 橋面舗装 等に損傷を 他の方法に	等でコ 与える	アー採耳恐れのる			

									単位:
							規	各値	
編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	個々の測定値 (X)	測定値の平均 (X)	測定基準測定箇所摘要
3 土 木	2 一 般	6 一 般	15	1	路面切削工	厚さ t	<del>-</del> 7	-2	厚さは40m毎に現舗装高切削後の基準 高の差で算出する。 測定点は車道中心線、車道端及びその
工事共通	施 工	舗 装 工				幅w	-25	_	中心とする。 延長40m未満の場合は、2ヶ所/施工箇 所とする。
編編									断面状況で、間隔、測点数を変えることが出来る。 測定方法は自動横断測定法によることが出来る。
									「3次元計測技術を用いた出来形管理 要領(案)」の規定による測点の管理 方法を用いることができる。
3 土木工事	2一般施工	6一般舗装	15	2	路面切削工 (面管理の場合) 標高較差または厚さ tのみ	厚さ t (標高較差)	ー17 (17) (面管理とし て緩和)	-2 (2)	1. 「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)」に基づき出来形管理を実施する場合に適用する。
事共通編	1	I				幅w	-25	_	の点で設計面との厚さ t または標高較 差を算出する。計測密度は1点/㎡ (平 面投影面積当たり) 以上とする。
									3. 厚さtまたは標高較差は、現舗装 高切削後の基準高との差で算出する。
									4. 幅は、延長40m毎に測定するもの とし、延長40m未満の場合は、2ヶ所 /施工箇所とする。

HH /	1//	٠	mm
	1/.		шш

																		単位:mm
								規	各値									
編	章	節	条	枝番	工種	測	定項目	個々の測定値 (X)	測定値の平均 ( <b>X</b> )	測	定	基	準	測	定	箇	所	摘要
3 土 木	2 一 般	6 一 般	16		舗装打換え工		幅w	_	50	各層毎1ヶ所 「3次元計額			上出来形管理					3-2-6-16
工事共通	施工	舗装工				路盤工	延長L	-:	100	要領(案)」 方法を用いる	の規定	官による	が測点の管理					
通編							厚さ t	該当	工種					w			$\bigcap_{w}$	
							幅w	_	25					<u>,                                    </u>		L		
						舗設工	延長L	-	100									
							厚さ t	該当	工種									
3 土 木	2 一 般	6 一 般	17	1	オーバーレイエ	厚	重さ t	_	-9	厚さは40m毎 イ後の基準高 測定点は車道	哥の差で	算出す	る。					3-2-6-17
土木工事共通	施工	舗 装 工					幅w	_	25	中心とする。 幅は、延長8 長80m未満の						€ I		
通編						延	E長 L		100	とする。 断面状況で、 とが出来る。		測点数	女を変えるこ	t +	787	<u> </u> 	-1781-	
						म	☑坦性		3mプロフィル メーター (σ)2.4mm以下 直読式(足付 き) (σ)1.75mm以 下	「3次元計》 要領(案)」 方法を用いる	の規定	官による		<u></u>	現創	i 铺装 w	,	

									里位:m
							規	格値	
編	<b>i</b> 章	章 節	条	枝番	I	種 測定項目	個々の測定値 (X)	測定値の平均 (X)	測定基準測定箇所摘要
33 土木工事共通編	- 1 - 8 M M M M M M M M M M M M M M M M M M	ー 一 一 般	17	2	オーバーレイ工(面管理の場合)	厚さあるいは標高較差		-3 3mプロフィルメーター (σ)2.4mm以下 直読式(足付き) (σ)1.75mm以下	定する計測精度・計測密度を満たす計 測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。
									<ul><li>スーレイ後の標高値との左で鼻出する。</li><li>5. 厚さを標高較差として評価する場合は、オーバーレイ後の目標高さとオーバーレイ後の標高値との差で算出する。</li></ul>

									単位:
編	章	節	条	枝番		測定項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所 摘 要
3 土 木 工	2 一 般	7 地 盤	2		路床安定処理工	基準高▽	±50	延長40m毎に1ヶ所の割で測定。 基準高は、道路中心線及び端部で測 定。	3-2-7-2 G
事共	施工	改良工				施工厚さ t	<b>-</b> 50	厚さは中心線及び端部で測定。 「3次元計測技術を用いた出来形管理 要領(案)」による管理の場合は、全	
通編						幅w	-100	体改良範囲図を用いて、施工厚さ t 、 天端幅w、天端延長Lを確認(実測は 不要)。	▼ ▼ ▼ † t
						延長L	-200		W
3 土 木 工	2 一般	7 地 盤	3		置換工	基準高▽	±50	施工延長40m (測点間隔25mの場合は 50m) につき1ヶ所、延長40m (50m) 以 下のものは1施工箇所につき2ヶ所。	G_   3-2-7-3
工事共通	施工	改良工				置換厚さ t	<b>—</b> 50	厚さは中心線及び端部で測定。	
編						幅w	-100		t w
						延長L	-200		<del>                                     </del>
									t
									w
									'

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
3 土木	2 一般	7 地 盤	4	1	表層安定処理工 (サンドマット海上)	基準高▽	特記仕様書に明示	施工延長10mにつき、1測点当たり5点以上測定。	2 3 4	3-2-7-4
工事共	施 工	改 良 工				法長0	-500		①/ <u>⑤</u>	
通編						天端幅w	-300	w、(L)は施工延長40mにつき1ヶ所、80m以下のものは1施工箇所につき 3箇所。	<b>\</b>	
						天端延長L	-500	(L)はセンターライン及び表裏法肩で行う。		
3 土 木 工	2 一般	7 地 盤	4	2	表層安定処理工 (ICT施工の場合)	基準高▽	特記仕様書に明示	施工延長10mにつき、1測点当たり5点以上測定。	2 3 4	3-2-7-4
工事共通	施工	改良工				法長ℓ	-500		① <u>(5)</u>	
編						天端幅w	-300	「3次元計測技術を用いた出来形管理 要領(案)」に記載の全体改良平面図 を用いて天端幅w、天端延長Lを確認		
						天端延長L	-500	(実測は不要)		
3 土 木 工	2 一 般	7 地 盤	5		パイルネットエ	基準高▽	±50	施工延長40m(測点間隔25mの場合は 50m)につき1ヶ所。 厚さは中心線及び両端で掘り起こして	Ę.	3-2-7-5
工事共通	施 工	改良工				厚さ t	-50	測定。 杭については、当該杭の項目に準ず る。	<u>₹</u>	
通編						幅w	-100		t t	
						延長L	-200			

		1			T					単位:mm
編	章	節	条	枝番	工   種	測定項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
3 土 木 工	2 一 般	7 地 盤	6		サンドマット工	施工厚さ t	-50	施工延長40m (測点間隔25mの場合は 50m) につき1ヶ所。 厚さは中心線及び両端で掘り起こして	Ę,	3-2-7-6
工事共通	施 工	改 良 工				幅w	-100	測定。		
編						延長 L	-200		w	
3	2	7	7		バーチカル ドレーンエ			100本に1ヶ所。		3-2-7-7
土木工	一般施	地盤改	,		(サンドドレーンエ) (ペーパードレーン	位置・間隔w	±100	100本に1ヶ所。 100本以下は2ヶ所測定。1ヶ所に4本測 定。 ただし、ペーパードレーンの杭径は対		0 4 1 1
事共通	工	良工			工) (袋詰式サンドドレー ン工)	杭径D	設計値以上	象外とする。	w	
編 3	2	7	8			打込長さ h	設計値以上	全本数		3-2-7-8
土	一般施	地盤改	0		(サンドコンパクションパイル工)	サンドドレーン、 袋 詰 式 サン ド ド レ ー ン、	_	計器管理にかえることができる。	$\leftarrow \longrightarrow \qquad \qquad \downarrow$	3-2-1-6
木工事共通	工	良工				サンドコンパクション パイルの砂投入量				
· 編									h	
									※余長は、適用除外	

単位<u>:mm</u>

								_		毕业:mm
編	章	節	条	枝番		測定項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
3 土 木	2 一般 施	7 地 盤	9	1	固結工 (粉体噴射撹拌工)	基準高▽	-50	100本に1ヶ所。 100本以下は2ヶ所測定。 1ヶ所に4本測定。	W Note C	3-2-7-9
土木工事共通編	施工	改 良 工			(高圧噴射撹拌工) (スラリー撹拌工) (生石灰パイルエ)	位置・間隔w	D/4以内			
通編						杭径D	設計値以上		W	
						深度L	設計値以上	全本数 $L = \ell_1 - \ell_2$	k w	
								$\it 0_1$ は改良体先端深度 $\it 0_2$ は改良端天端深度		
									$\ell_1$ $\ell_2$ $\ell_2$ $\ell_3$ $\ell_4$ $\ell_4$ $\ell_5$	

単位<u>:mm</u>

編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測 定 基 準	P(Z : mm
3 土 木	2 一 般	7 地 盤	9	2	固結工 (スラリー撹拌工)	基準高▽	0以上	杭芯位置管理表により基準高を確認	3-2-7-9
工事共通編	施工	改良工			「3次元計測技術を用いた出来形管理要領 (案)固結工(スラリー撹拌工)編」によ る管理の場合	位置	D/8以内	全本数 施工履歴データから作成した杭芯位置 管理表により設計杭芯位置と施工した 杭芯位置との距離を確認 (掘起しによる実測確認は不要)	
						杭径D	設計値以上	工事毎に1回 施工前の撹拌翼の寸法実測により確認 (掘起しによる実測確認は不要)	C. L.
						改良長L	設計値以上	全本数 施工履歴データから作成した杭打設結 果表により確認 (残尺計測による確認は不要)	G. L.
3 土 木	2 一 般	7 地 盤	9	3	固結工 (中層混合処理)	基準高▽	設計値以上	1,000㎡~4,000㎡につき1ヶ所、また は施工延長40m (測点間隔25mの場合は 50m) につき1ヶ所。	3-2-7-9 CL
工事共通	施工	改良工			(T/BIAG/C/E)	施工厚さ t	設計値以上	1,000㎡以下、又は施工延長40m (50m) 以下のものは1施工箇所につき 2ヶ所。	
通編						幅w	設計値以上	施工厚さは施工時の改良深度確認を出 来形とする。 「3次元計測技術を用いた出来形管理	
						延長L	設計値以上	要領 (案) 」による管理の場合は、全 体改良範囲図を用いて、施工厚さ t 、 幅w、延長Lを確認(実測は不要)。	w w

										<b>半江・Ⅲ</b>
編	章	節	条	枝番	工   種	測定項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
3 土木 工	2 一 般	10 仮 設	5	1	土留・仮締切工 (H鋼杭)	基準高▽	±100	基準高は施工延長40m (測点間隔25mの 場合は50m) につき1ヶ所。延長40m (又は50m) 以下のものは、1施工箇所		3-2-10-5
工事共通	施 工	エ			(鋼矢板)	根入長	設計値以上	につき2ヶ所。		
編									, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	
3 土 木 工	2 一 般	10 仮 設	5	2	土留・仮締切工 (アンカー工)	削孔深さ0	設計深さ以上	全数	d	3-2-10-5
工事共通	施工	工				配置誤差d	100		)	
編編									x	
									$d = \sqrt{x^2 + y^2}$	
3 土 木 工	2 一般	10 仮 設	5	3	土留・仮締切工 (連節ブロック張り	法長0	100	施工延長40m (測点間隔25mの場合は 50m) につき1ヶ所、延長40m (または 50m) 以下のものは1施工箇所につき	L 1	3-2-10-5
工事共通	施 工	工			工)	less desc.		2ヶ所。		
編						延長 L 1, L 2	-200	1施工箇所毎		
									L 2	

										単位:mm
編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
3 土 木	2 一 般:	10 仮 設	5	4	土留・仮締切工 (締切盛土)	基準高▽	-50	施工延長50mにつき1ヶ所。 延長50m以下のものは、1施工箇所につ き2ヶ所。		3-2-10-5
工事共通	施 工	工				天端幅w	-100			
通編						法長0	-100		NAME AND ADDRESS OF THE PARTY O	
3 土 木	2 一 般	10 仮 設	5	5	土留・仮締切工 (中詰盛土)	基準高▽	-50	施工延長50mにつき1ヶ所。 延長50m以下のものは、1施工箇所につ き2ヶ所。		3-2-10-5
工事共通編	施工	エ								
3 土 木	2 一 般	10 仮 設	9		地中連続壁工 (壁式)	基準高▽	±50	基準高は施工延長40m(測点間隔25mの 場合は50m) につき1ヶ所。延長40m (又は50m) 以下のものについては1施		3-2-10-9
工事共通	施 工	工				連壁の長さ0	-50	工箇所につき2ヶ所。 変位は施工延長20m(測点間隔25mの場 合は25m)につき1ヶ所。延長20m(又		
通編						変位	300	は25m) 以下のものは1施工箇所につき 2ヶ所。	<b>─</b>	
						壁体長L	-200		L	

編	章	節	条	枝番	工   種	Ì	測定項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
3 土 木	2 一 般	10 仮 設	10		地中連続壁工 (柱列式)		基準高▽	±50	基準高は施工延長40m (測点間隔25mの 場合は50m) につき1ヶ所。延長40m (又は50m) 以下のものについては1施	l 	3-2-10-9 D:杭径
工事共	施工	エ					連壁の長さ0	-50	工箇所につき2ヶ所。 変位は施工延長20m(測点間隔25mの場 合は25m)につき1ヶ所。延長20m(又		
通編							変位 d	D/4以内	は25m) 以下のものは1施工箇所につき 2ヶ所。	V	
							壁体長L	-200			

編	章	節	条	枝番		種	浿	〕定	項目	規格値	測 定 基 準	測	定	箇	所	摘要
3 土 木	2 一 般	12 工 場	1	1	鋳造費 (金属支承工)		上下部	孔	の直径差	+2 -0	製品全数を測定。 ※1)ガス切断寸法を準用する					3-2-12-1
工事共	施 工	製 作 工					鋼構造			)突起を基準 孔の位置ずれ	※2)片面のみの削り加工の場合も含む。 ※3)ソールプレートの接触面の橋軸					
通編		共 通					物との埣	中心	≦1,000mm	1以下	及び橋軸直角方向の長さ寸法に対してはCT13を適用するものとする。					
							接合用ボ	距離	ボス <i>0</i> とした	)突起を基準 孔の位置ずれ	※4) 全移動量分の遊間が確保されているのかをする。					
							ル ト 孔		>1,000mm	1.5以下	<ul><li>※5)組立て後に測定</li><li>詳細は道路橋支承便覧参照</li></ul>					
							アン	ドリル	≦100mm	+3 -1						
							カーバー	加 工 孔	>100mm	$^{+4}_{-2}$						
							カーボルトー用孔(鋳放し)	孔の『	中心距離※1	JIS B 0403-1995 CT13						
							センタ	ボ	スの直径	+0 -1						
							ーボス	ボ	スの高さ	+1 -0						
							ボス	ボ	スの直径	+0 -1						
							<b>※</b> 5	ボ	スの高さ	+1 -1						
					(次頁に続く)		上沓(角方向	の橋軸	及び橋軸直 さ寸法	JIS B 0403-1995 CT13						

編	章	節	条	枝番	工種	泪	別 定 項 目	規格値	測	定	基	準	測	定	笛	 所	単位:mm   描 要
3 土 木	2 一般	12 工場	1	1		全移動	ℓ ≦ 300mm	±2									
土木工事共通	施工	製作工				量 ℓ ※ 4	l > 300mm	± 0/100									
編		共 通				組	上,下面加工仕上 げ	±3									
						型立高さ 日	コ 構ク 造リ 用   H≤300mm	±3									
						Н	h 11> 500mm	(H/200+3)小数 点以下切り捨て									
							鋳放し長さ寸法 ※2)、※3)	JIS B 0403-1995 CT14									
						普通	鋳放し肉厚寸法 ※2)	JIS B 0403-1995 CT15									
						寸法	削り加工寸法	JIS B 0405-1991 粗級									
							ガス切断寸法	JIS B 0417-1979 B級									
3 土 木	2 一 般	12 工 場	1	2	鋳造費 (大型ゴム支承工)	幅 W 長	w, L, D≦500	0~+5	製品全数を測 平面度:1個の の最大相対誤	りゴム支	で承の厚	[さ(t)					3-2-12-1
木工事共通	施工	製作工				スさし直	500 < w, L, D ≤1,500mm	0~+1%	詳細は道路橋		覧参照		_補引	·····································			
通編		共通				径 D	1,500 < w, L, D	0~+15					t		$\equiv$	L	
		~=					t ≦20mm	$\pm 0.5$						W			
						厚 さ t	20< t ≦160	±2.5%								<b>d</b> t t	
							160< t	$\pm 4$					<b>←</b>	D		<b>→</b>	
						相対	w, L, D≦ 1,000mm	1									
						誤差	1,000mm <w,l,< td=""><td>(w, L, D)/ 1,000</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></w,l,<>	(w, L, D)/ 1,000									

<u>単位:mm</u>

編	章	節	条	枝番	工 種	浿	定項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
3 土木工事共通編	2 一般施工	12工場製作工 共通	1	3	仮設材製作工	部材	部材長Q (m)	±3··· ℓ≤10 ±4··· ℓ>10	図面の寸法表示箇所で測定。		3-2-12-1
3 土木工事共通編	2一般施工	12工場製作工 共	1	4	刃口金物製作工	刃	口高さh (m)	$\pm 2 \cdots  h \le 0.5$ $\pm 3 \cdots$ $0.5 < h \le 1.0$ $\pm 4 \cdots$ $1.0 < h \le 2.0$	図面の寸法表示箇所で測定。	h	3-2-12-1
SSIIO		通				3	小周長L(m)	± (10+ L/10)			

														単位: mm
編	章	節	条	枝番	工種	31	si 宁	項目	規格値	測 定	基準	測	定箇所	摘要
が冊	平	디	木	仅留	1里	U		快 口	· 从 作 i 但	鋼桁等	トラス・アーチ等			加女
3 土木工事共通編	2 一般施工	12工場製作工 共通	3	1	桁製作工 (仮組立による検査を 実施する場合) (シミュレーション仮 組立検査を行う場合)		腹板	ンジ幅w(m) 高 h(m) 間隔 b′(m)	$\pm 2 \cdots \text{ w} \leq 0.5$ $\pm 3 \cdots$ $0.5 < \text{ w} \leq 1.0$ $\pm 4 \cdots$ $1.0 < \text{ w} \leq 2.0$ $\pm (3 + \text{ w}/2) \cdots$ 2.0 <  w	合は、製造工場のく試験成績表に替え	つき1個抜き 付近を測定。 そ示品を使用する場 発行するJISに基づ	h w I 型鋼桁	h h k b トラス弦材	3-2-12-3
							板の平	鋼桁及びト ラス等の部 材の腹板	h/250	主桁 各支点及び各支間巾 h:腹板高(mm) b:腹板又はリブの w:フランジ幅(m	つ間隔 (mm)	*	b $\delta$	3-2-12-3
						部材精度	面度。	箱桁及びト ラス等のフ ランジ鋼床 版のデッキ プレート	b /150	W . 7 7 7 7 7 7 1 (III		5	δ	3-2-12-3
								ンジの直角度 δ (mm)	w/200				Y	
							部材長ℓ	鋼桁	$\begin{array}{ccc} \pm 3 \cdots & \ell \leq 10 \\ \pm 4 \cdots & \ell > 10 \end{array}$	原則として仮組立る について、主要部を	をしない状態の部材 才全数を測定。			3-2-12-3
							© ( m)	トラス、 アーチなど	$\begin{array}{ccc} \pm 2 \cdots & \ell \leq 10 \\ \pm 3 \cdots & \ell > 10 \end{array}$					
								i材の曲がり δ (mm)	<b>ℓ</b> ∕1,000	_	主要部材全数を測定。 & : 部材長 (mm)		e s	3-2-12-3
							※規 た る。	格値のwに代 だし、「板の	入する数値はm単 平面度δ,フラン	- 立の数値である。 ジの直角度δ,圧縮	材の曲りδ」の規格化	直のh, b, w	に代入する数値は㎜単	位の数値とす

												単位: mm
編	章	節	条	枝番	工 種	3	則定項目	規格値	測 定	基準	測定簡所	摘要
形冊	早	即	采	(又省	上 作	t.	11 化 垻 日	况 俗 ॥	鋼桁等	トラス・アーチ等	例 た 固 別	摘 安
3 土木工事#	2 一般施工	12 工場製作工	3	1	桁製作工 (仮組立による検査を 実施する場合) (シミュレーション仮 組立検査を行う場合)		全長 L (m) 支間長 L n (m)	± (10+L/10) ± (10+Ln/10)	各桁毎に全数測定。		単径間の場合 <u>L</u> <u>L1 L2 L3</u>	3-2-12-3
共通編		工 共通			組立快宜を1]り場合)		主桁、主構の中 心間距離 B (m)		各支点及び各支間中	中央付近を測定。		3-2-12-3
							主構の組立高さ h (m)	$\pm 5 \cdots h \le 5$ $\pm (2.5 + h/2)$ $\cdots h > 5$	_	両端部及び中心部を測定。	h 📜	3-2-12-3
							主桁、主構の通り δ (mm)	5+L/5···L≤100 25···L>100	最も外側の主桁又/ 及び支間中央の1点 L:測線上(m)	ま主構について支点 を測定。	主 π	3-2-12-3
						仮組立精度	主桁、主構のそり δ (mm)	$-5 \sim +5 \cdots L \leq 20$ $-5 \sim +10 \cdots$ $20 < L \leq 40$ $-5 \sim +15 \cdots$ $40 < L \leq 80$ $-5 \sim +25 \cdots$ $80 < L \leq 200$	各主桁について10 〜12m間隔を測定。 L:主桁の 支間長(m)	各主構の各格点を 測定。 L:主構の支間長 (m)	o d d d d d d d d d d d d d d d d d d d	3-2-12-3
							主桁、主構の橋端 における出入差 δ (mm)	±10	どちらか一方の主 定。	桁(主構)端を測	δ <del>////////////////////////////////////</del>	3-2-12-3
							主桁、主構の 鉛直度 δ (mm)	3+h/1,000	各主桁の両端部を 測定。 h:主桁の高さ (mm)	支点及び支間中央 付近を測定。 h:主構の高さ (mm)	$\delta$ $h$	3-2-12-3
							現場継手部の すき間 δ1, δ2 (mm)	±5	き間の許容範囲の	いもの n未満の場合は、す )下限値を0mmとす が3mmの場合、すき	δ <sub>1</sub>	3-2-12-3
									値はm単位の数値で の規格値のhに代	ある。 入する数値はmm単位	の数値とする。	

<u>単位:mm</u>

編	章	節	条	枝番	工   種	涯	則 定	項目	規格値		測 定 基 準	測 定 箇 所	海 要
3 土木工事共通編	2 一般 施 工	12 工場製作工 共通	工 (仮組立検査 場 ない場合) 集 作 工 共	(仮組立検査を実施し		フラン腹板間	ノジ幅w(m) 高 h(m)	$\begin{array}{l} \pm 2 \cdots w \leq 0.5 \\ \pm 3 \cdots 5 < w \leq 1 \\ \pm 4 \cdots \\ 1.0 < w \leq 2. \\ \pm (3 + w / 2) \\ 2.0 < w \end{array}$	. 0	主桁、主構 各支点及び各支間中央付近を測定。 床組など 構造別に、5部材につき1個抜き取った 部材の中央付近を測定。	十一	3-2-12-3	
							板の平面	鋼桁等の部 材の腹板	h /250		主桁 各支点及び各支間中央付近を測定。 h:腹板高(mm) b:腹板またはリブの間隔(mm) w:フランジ幅(mm)	b	
						部材精	度	箱桁等のフランジ鋼床 版のデッキ プレート	b /150			δ	
						度		ンジの直角度 う (mm)	w/200			w/2, Δ δ	
							部 材 長 ℓ (m)	鋼桁	$ \pm 3 \cdots \ell \leq 10 \\ \pm 4 \cdots \ell > 10 $		主要部材全数を測定。		
							<b>※</b> 規札 たか	各値のwに代 ごし、「板の	入する数値はm. 平面度δ,フラ	単位・ンシ	の数値である。 ジの直角度δ」の規格値のh,b,wに	代入する数値はmm単位の数値とする。	

					•			•		単位:mm
編	章	節	条	枝番		測定項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
3 土 木	2 一 般	12 工場製作工 共通	3	3	桁製作工 (鋼製堰堤製作工 (仮組立時))	部材の水平度	10	全数を測定。	I hh h h h h h h h h h h h h h h h h h	3-2-12-3
土木工事共通	施工				,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	堤長L	±30			
通編						堤長ℓ	±10			
						堤幅W	±30	L h		
						堤幅w	±10			
						高さH	±10			
						ベースプレートの高さ	±10	H	H	
						本体の傾き	±H/500	welen	W W V	
					(次頁に続く)				H L L L C C C C C C C C C C C C C C C C	

	,						1			単位:mm
編	章	節	条	枝番	工   種	測定項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
3 土木工事共通編	2 一般施工	12 工場製作工 共通	3	3				H W W H	H L H	

編	章	節	条	枝番	工工種	泪	」定 項 目	規格値	測 定 基 準		単位:mm 摘 要
3 土 木 T.	2 一般施工	12 工場製作	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	以田	検査路製作工	部材	部材長ℓ(m)	先 格 旭 ±3…ℓ≤10 ±4…ℓ>10	図面の寸法表示箇所で測定。		摘 安3-2-12-4
事共通編	4	土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土土									
3 土木工事共通編	2一般施工	12 工 場 製 作	5		鋼製伸縮継手製作工	部材	部材長w(m)	0~+30	製品全数を測定。	W W	3-2-12-5
+ 共通編	+	上工 共通				仮組	組合せる伸縮装 置との高さの差 δ1 (mm)	設 計 値 ±4	両端部及び中央部付近を測定。		
						立 時	フィンガーの食 い違い δ2 (mm)	±2		δ <sub>1</sub>	
3 土木工事共通	2 一般施工	12 工 場 製 作 工	6		落橋防止装置製作工	部 材	部材長ℓ (m)	$\begin{array}{l} \pm 3 \cdots \ell \leq 10 \\ \pm 4 \cdots \ell > 10 \end{array}$	図面の寸法表示箇所で測定。		3-2-12-6
編		共通									

編	章	節	条	枝番	工   種	浿	定項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所 摘 要
3 土木工事共通編	2一般施工	12工場製作工 共通	7		橋梁用防護柵製作工	部 材	部材長ℓ (m)	$ \pm 3 \cdots \ell \leq 10  \pm 4 \cdots \ell > 10 $	図面の寸法表示箇所で測定。	3-2-12-7
3 土木工事共通編	2 一般施工	12 工場製作工	8		アンカーフレーム製作 工	仮	上面水平度 δ1 (mm)	b / 500	軸心上全数測定。	b 3-2-12-8
通編		共通				組立時	鉛直度 ð 2(mm)	h/500		h /
							高さh (mm)	±5		$\delta_2$

編	章	節	条	枝番	工工種	泪	別 定 項	В	抻	格値	測		基準	測定箇所	事位:mm 摘 要
	, i			仅留				Н	クメエ	11年 11년				例 だ 固 刀	
3 土木工事共通編	2 一般施工	12工場製作工 共通	9		プレビーム用桁製作工		フランジ幅 腹板高	畐w(m) h(m)	±4··· 1.0<	$w \le 1.0$ $w \le 2.0$ $w \ge 2$	各支点及び行	各支間中分	央付近を測定。	h ↓ w I 型鋼	3-2-12-9
						部材	フランジの δ (mm		w	/200	各支点及び	各支間中与	央付近を測定。	δ	3-2-12-9
							部材長ℓ	(m)		$ \begin{array}{c} \cdot \cdot \ell \leq 10 \\ \cdot \cdot \cdot \ell > 10 \end{array} $	原則としてて主要部材金	仮組立を 全数で測え	しない部材につい <sup>它。</sup>	2	3-2-12-9
						仮組立時	主桁のそ	υδ	$-5 \sim +$	…L≦20	各主桁につい	ハて10~1	2m間隔を測定。	L S	3-2-12-9

																	単位:mm
編	章	節	条	枝番	工   種	測	定項目	規格値	測	定	基	準	測	定	筃	所	摘要
3 土木工事共通編	2 一般施工	12 工場製作工 共通	10		鋼製排水管製作工	部 材	部材長ℓ (m)	$\begin{array}{c} \pm 3 \cdots \ell \leq 10 \\ \pm 4 \cdots \ell > 10 \end{array}$	図面の寸法表	長示箇所	で測定。						3-2-12-10
3 土木工事共通編	2 一般施工	12工場製作工 共通	11		工場塗装工			b. 測定値の最小 値は、目標途膜厚 合計値の70%以	ントの塗付 し、内面塗塗 1ロット当た 1ロット当た 1ロッル 1ロの側の 1の点の面積が 1のの 1のの 1のの 1のの 1のの 1のの 1のの 1の	後 を さり は に り に に に に に に に に に に に に に	塗り終去 500㎡ 数は25パ る。たない る。たない	了時に測定 終すとは すと が で で で で で で で で で で で で で で り で で り で り で り で り で り で り で り で り で り で り で り で り で り で り で り					3-2-12-11

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	単位:mm 摘 要
3 土木工事共	2 一般 施工	13 橋梁架設工			架設工 (鋼橋) (クレーン架設) (ケーブルクレーン架 設) (ケーブルエレクショ	全長 L (m) 支間長 L n (m)	± (20+L/5) ± (20+Ln/5)	各桁毎に全数測定。	単径間の場合	3-2-13
通編					ン架設) (架設桁架設) (送出し架設) (トラベラークレーン 架設)	通りδ (mm)	± (10+2L/5)	L: 主桁・主構の支間長 (m)	ま 桁	
						そりδ (mm)	± (25+L/2)	主桁、主構を全数測定。 L:主桁・主構の支間長 (m)	δ L	
						※主桁、主構の中心間 距離B (m)	$\begin{array}{c} \pm 4 \cdots B \leq 2 \\ \pm (3 + B/2) \cdots \\ B > 2 \end{array}$	各支点及び各支間中央付近を測定。		
						※主桁の橋端における 出入差δ (mm)	±10	どちらか一方の主桁(主構)端を測 定。	δ 	
						※主桁、主構の鉛直度 δ (mm)	3+h/1,000	各主桁の両端部を測定。 H:主桁・主構の高さ(mm)	δ I h	
						※現場継手部のすき間 δ1, δ2 (mm)	±5	主桁、主構の全継手数の $1/2$ を測定。 $\delta$ 1, $\delta$ 2のうち大きいもの なお、設計値が $5$ mm未満の場合は、すき間の許容範囲の下限値を $0$ mmとする。 (例:設計値が $3$ mmの場合、すき間の許容範囲は $0$ mm $\sim$ $8$ mm)	$\delta_1$ $\delta_1$ $\delta_2$	
								※は仮組立検査を実施しない工事に適用。		
						※規格値のL, Bに代入 ただし、「主げた、主	する数値はm単位の 構の鉛直度δ」の	)数値である。 規格値のhに代入する数値は‱単位の数	 が値とする。	

編	章	節	条	枝番	工種	浿	」 定 項 目	規格値	測 定 基 準	 	単位:m       摘 要
3 士 木 工	2 一般施	13 橋梁架			<ul><li>架設工(コンクリート</li><li>橋)</li><li>(クレーン架設)</li></ul>		全長・支間	_	各桁毎に全数測定。		3-2-13
上事共通編	工	設工			(架設桁架設) 架設工支保工 (固定)	桁	5の中心間距離	_	一連毎の両端及び支間中央について各 上下間を測定。		
17110					(移動) 架設桁架設 (片持架設)		そり	_	主桁を全数測定。		
3	2	14	2	1	(押出し架設) 植生工	切	0.45	200	施工延長40m(測点間隔25mの場合は		3-2-14-2
土 木 工	般施	法面工			(種子散布工) (張芝工)	土法	0 < 5m	-200	50m) につき1ヶ所、延長40m (または 50m) 以下のものは1施工箇所につき 2ヶ所。		
事共通	工	共通			(筋芝工) (市松芝工) (植生シートエ)	長 0	$\ell\!\geqq\!5\mathrm{m}$	法長の-4%	ただし、計測手法については、従来 管理のほかに「3次元計測技術を用い た出来形管理要領(案)」で規定する		
編		理			(植生ンードエ) (植生マットエ) (植生筋工) (人工張芝工)		Q < 5m	-100	に山米が官理委領(条)」で規定する 出来形計測性能を有する機器を用いる ことができる。		
					(植生穴工)	盛土法長ℓ	$\varrho \geq 5 \mathrm{m}$	法長の-2%			
							延長L	-200	1施工箇所毎 ただし、計測手法については、従来 管理のほかに「3次元計測技術を用い た出来形管理要領(案)」で規定する 出来形計測性能を有する機器を用いる ことができる。		

単位<u>:mm</u>

編	章	節	条	枝番	工  種	浿	1 定項目	規格値	測 定 基 準	測	定	筃	所	摘 要
3 土木工事	2 一般施工	14 法面工	2	2	植生工 (植生基材吹付工) (客土吹付工)	法長	$\varrho$ $<$ $5m$	-200	施工延長40mにつき1ヶ所、40m以下の ものは1施工箇所につき2ヶ所。 ただし、計測手法については、従来 管理のほかに「3次元計測技術を用い た出来形管理要領(案)」で規定する					3-2-14-2
事共通編		共通				Q Q	$\ell \geq 5 \mathrm{m}$	法長の-4%	出来形計測性能を有する機器を用いる ことができる。					
							t < 5cm	-10	施工面積200㎡につき1ヶ所、面積200㎡以下のものは、1施工箇所につき2ヶ所。					
						厚さ	t ≧5cm	-20	検査孔により測定。					
						t	ただし、吹付面に 最小吹付厚は、設 し、平均厚は設計	計厚の50%以上と						
							延長L		1施工箇所毎 ただし、計測手法については、従来 管理のほかに「3次元計測技術を用い た出来形管理要領(案)」で規定する 出来形計測性能を有する機器を用いる ことができる。					

単位<u>:mm</u>

編	章	節	条	枝番	工種	浿	則 定 項 目	規格値	測定基準	測 定 箇 所	単位:mm 摘 要
3 土 木 工 事	2 一般施工	14 法 面 工	3		吹付工 (コンクリート) (モルタル)	法長	ℓ < 3m	-50	施工延長40mにつき1ヶ所、40m以下の ものは1施工箇所につき2ヶ所。 測定断面に凹凸があり、曲線法長の測 定が困難な場合は直線法長とする。 ただし、計測手法については、従来		3-2-14-3
事共通編		共通				Q Q	$\ell \! \ge \! 3 \mathrm{m}$	-100	管理のほかに「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)」で規定する 出来形計測性能を有する機器を用いる ことができる。	2	
							t <5cm	-10	200㎡につき1ヶ所以上、200㎡以下は2ヶ所をせん孔により測定。		
						厚 さ t	t ≧5cm	-20		2	
							ただし、吹付面に 最小吹付厚は、設 し、平均厚は設計	計厚の50%以上と			
							延長 L	-200	1施工箇所毎 ただし、計測手法については、従来 管理のほかに「3次元計測技術を用い た出来形管理要領(案)」で規定する 出来形計測性能を有する機器を用いる ことができる。		

編	章	節	条	枝番	工 種	測	」 定 項 目	規格値	測 定 基 準 測 定 箇 所 摘 要
3 士 木 工 事	2一般施工	14 法 面 工	4	1	法枠工 (現場打法枠工) (現場吹付法枠工)	法	$\ell\!<\!10\text{m}$	-100	施工延長40m(測点間隔25mの場合は 50m) につき1ヶ所、延長40m(または 50m) 以下のものは1施工箇所につき 2ヶ所。 計測手法については、従来管理のほか
共通編	+	共通				長 0	$\ell \ge 10 \mathrm{m}$	-200	に「3次元計測技術を用いた出来形管 理要領(案)」で規定する出来形計測 性能を有する機器を用いることが出来 る。
							幅w	-30	枠延延長100mにつき1ヶ所、枠延延長 100m以下のものは1施工箇所につき2ヶ 所。 計測手法については、従来管理のほか に「3次元計測技術を用いた出来形管
							高さh	-30	理要領(案)」で規定する出来形計測 性能を有する機器を用いることが出来 る。
						1	卆中心間隔 a	±100	
							延長L	-200	1施工箇所毎 計測手法については、従来管理のほか に「3次元計測技術を用いた出来形管 理要領(案)」で規定する出来形計測 性能を有する機器を用いることが出来 る。
3 土木工事:	2一般施工	14 法面工	4	2	法枠工 (プレキャスト法枠 工)	法長	$\ell\!<\!10m$	-100	施工延長40m (測点間隔25mの場合は 50m) につき1ヶ所、延長40m (または 50m) 以下のものは1施工箇所につき 2ヶ所。
共通編		共通				R Q	$\ell \geqq 10 \mathrm{m}$	-200	
							延長L	-200	1施工箇所毎

				1	1	1	1			単位:mm
編	章	節	条	枝番	工   種	浿	定 項 目	規格値		商 要
3 土 木 工	2 一般施	14 法面工	6		アンカーエ		削孔深さℓ	設計値以上	全数 3-2-1 ※鉄約 にもi	14-6 筋挿入工 適用する
事共通編	工	共通					配置誤差 d	100	$y$ $\theta$	
							せん孔方向 θ	±2.5度	x x	
									$d = \sqrt{x^2 + y^2}$	
3 土 木 工	2 一般 施	15 擁 壁 工	1		一般事項 (場所打擁壁工)		基準高▽	±50	施工延長40m (測点間隔25mの場合は 50m) につき1ヶ所、延長40m (または 50m) 以下のものは1施工箇所につき 2ヶ所。	15-1
事共通編	I	共通					厚さ t	-20	「3次元計測技術を用いた出来形管理 要領(案)」に基づき出来形管理を実 一施する場合は、同要領に規定する計測	
							裏込厚さ	-50	精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施することができる。	
							幅 W <sub>1</sub> , W <sub>2</sub>	-30		
						高さ	h < 3m	-50		
						h	h≧3m	-100	$\begin{bmatrix} \mathbf{w}_1 & \mathbf{w}_1 \\ \mathbf{w}_1 & \mathbf{w}_1 \\ \mathbf{v}_1 & \mathbf{v}_2 \end{bmatrix}$	
							延長L	-200	1施工箇所毎 「3次元計測技術を用いた出来形管理 要領(案)」に基づき出来形管理を実 t	
									施する場合は、同要領に規定する計測 精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施することができる。	

	l	1		<u> </u>	ī	ı						I						I							i位:mm
編 3	章 2	節 15	条 2	枝番	エ 種プレキャスト擁壁工	浿	<b>川</b> 5	定 項	[ ]	規	格値		測 施工延長4	ĺ		_	準5mの提	4合け	測	定	筐	Ì	所	摘 3-2-15	要
土木工事	一般施丁	雅 壁 工	2		フレイイハ下が生生工								施工歴以 50m) につ 50m) 以下 2ヶ所。	き1ヶ	· 所、 延	正長4	Om (ま	こたは						J Z 10	2
#共通編	+	共通					基	準高で	abla	<u>+</u>	50		「3次元計 要領(案) 施する場合 精度・計測 り出来形管 る。	」に は、 側密度 管理を	基づき 同要領 を満た	出来 に規 す計	形管理 定する 測方法	型を実 計測 たによ		7		$\nabla$			
							3	延長 L	,	_	200		1施工箇所領 「3次元計 要領(案)	+測技											
												;	施する場合精度・計測 り出来形質	合は、 側密度	同要領 を満た	i に規 :す計	定する  測方法	計測							
3 土 木 工	2 共通的	15 擁 壁 工	3		補強土壁工 (補強土 (テールアル メ)壁工法)		基	準高	abla	<u>±</u>	50		施工延長4 50m) につ 50m) 以下 2ヶ所。	き1ヶ	所、延	€長4	.Om (ま	たは		-  <del> </del> -				3-2-15	5-3
事共通編	重種	共通			(多数アンカー式補強 土工法) (ジオテキスタイルを 用いた補強土工法)			h <	<3m	_	- 50		「3次元計 要領(案) 施する場合	] 13	基づき	出来	形管理	₹を実	h	Ē			<u></u>		
						h		h≧	≧3m	-	100		精度・計測 り出来形質 る。	則密度	を満た	す計	·測方法	きによ	1129		===	=	=		
							鉛	ì直度∠	Δ	±0.03 ±30	3 h か 0以内									-	^    -				
						(神		え長さすの設	さ (計長)	設計	値以上	<u>.</u>								h	Ě		- /		
							3	延長 L	,	_	200		1施工箇所名 「3次(第一 でででででするででです。 では、 でででできる。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	上測技 」は、 は、度	基づき 同要領 を満た	出来に規定す計	形管理 定する 測方法	を実 計測 によ	TIS				:/		

編	章	節	条	枝番	工種	浿	」 定 項 目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
3 土 木 工	2 一般 施	15 擁 壁 工	4		井桁ブロック工		基準高▽	±50	施工延長40m (測点間隔25mの場合は 50m) につき1ヶ所、延長40m (または 50m) 以下のものは1施工箇所につき 2ヶ所。	13-2	2-15-4
工事共通編	工	共通				法長	$\varrho$ $<$ $3m$	-50			
ηγια						Q Q	$\ell\! \ge \! 3m$	-100		0/2 0/1 t <sub>3</sub>	
						厚	≛t₁, t₂, t₃	<b>-</b> 50		t <sub>1</sub> Q	
							延長L <sub>1</sub> ,L <sub>2</sub>	-200	1施工箇所毎	$\ell \geq 3 \text{ m}$ $\ell < 3 \text{ m}$	

編	章	節	条	枝番	工種	浿	〕定	項目	規	格	値	測	定	基	準		測	定	筃	所	単位:mm 摘 要			
3 土木工事共通	2 一 般 施	工	3	1	浚渫船運転工 (ポンプ浚渫船)	复		200ps	-800	)~+:	200	延長方向は、設計図書により指定 た測点毎。 横断方向は、5m毎。 また、斜面は法尻、法肩とし必要							3-2-16-3					
	工						電気船	₹ 500ps	-1,00	00~+	-200	じ中間点も力	じ中間点も加える。ただし、各測定値 の平均値の設計基準高以下であるこ											
編						基準		1,000ps	-1, 20	00~+	-200						<u></u>							
						高▽	ディ	250ps	-800	)~+:	200							$\nabla$						
							ーゼル	420ps 600ps	-1,00	00~+	-200													
							船	1,350ps	-1, 20	00~+	-200													
							ľ	福	_	-200														
							延	長	-	-200														
3 土 木 工	2 一般施工	16 浚 渫 工	3	2	(2	2	2	浚渫船運転工 (グラブ浚渫船) (バックホウ浚渫船)		基準	高▽	+20	00以-	下	延長方向は、 た測点毎。 横断方向は、 また、斜面に	5m毎。			<b>│</b>	<u></u>				3-2-16-3
事共通		土						幅		_	-200		じ中間点も加	加える。フ	、伝屑としいる。 。ただし、各注 基準高以下でを	<ul><li>、各測定値</li></ul>	1 \							
編							延	長	_	-200								J						

編	章	節	条	枝番	工  種	測定項目	規	各値	測 定 基 準	
3 土木工事共通編	2 一 般	16 浚 渫	3	3	浚渫船運転工 (バックホウ浚渫船) (面管理の場合)		平均値		1. 3次元データによる出来形管理に 3-2-16-3 おいて「3次元計測技術を用いた出来 形管理要領(案)」に基づき出来形管	
	施 工	土				標高較差	0以下 +400以下	以下	理を面管理で実施する場合、その他本 基準に規定する計測精度・計測密度を 満たす計測方法により出来形管理を実	
		通							施する場合に適用する。  2. 個々の計測値の規格値には計測精度として±100mmが含まれている。	
										3. 計測は平場面と法面の全面とし、 全ての点で設計面との標高較差を算出 する。計測密度は1点/㎡(平面投影 面積当たり)以上とする。

編	章	節	条	枝番	工   種	測定項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要						
3 土木工車	2 一般施工	18 床 版 工	2		床版工	基準高▽	±20	基準高は、1径間当たり2ヶ所(支点付近)で、1箇所当たり両端と中央部の3点、幅は1径間当たり3ヶ所、厚さは型枠設置時におおむね10㎡に1ヶ所測定。		3-2-18-2						
事共通編	Τ.											幅w	$0 \sim +30$	だ。 (床版の厚さは、型枠検査をもって代 える。)		
						厚さ t	$-10\sim+20$									
						鉄筋のかぶり	設計値以上	1径間当たり3断面(両端及び中央)測定。1断面の測定箇所は断面変化毎1ヶ所とする。								
						鉄筋の有効高さ	±10	1径間当たり3ヶ所(両端及び中央)測 定。 1ヶ所の測定は、橋軸方向の鉄筋は全 数、橋軸直角方向の鉄筋は加工形状毎 に2mの範囲を測定。								
						鉄筋間隔	±20									
										上記、鉄筋の有 効高さがマイナ スの場合	±10					
6 河 川	1 築 堤	7 法 覆	4	1			護岸付属物工	幅w	-30	「3次元計測技術を用いた出来形管理 要領(案)」の規定による測点の管理 方法を用いることができる。		6-1-7-4				
編	• 護 岸	護岸工					高さ h	-30								
									h							